

特268
164



0056316-000

特268-164

国防大写真帖

報知新聞社・編

報知新聞社

昭和8

AJC

特 268
164

349
380



磨齒煉ブラック

美・康・健・く磨でブラック・にから期・く強・くし々・雄……命長齒強

健康は一家の幸福を導く
 磨歯煉は歯の健康にクランプ



磨歯煉の
 ナンバーワン

帖真寫大防國



磨齒煉 ブラック

美の康^{けん}・健^{けん}く磨^までブラック・にから朗^{らう}く強^{きやう}くし々^{し々}・雄^{ゆう}……命長齒強

健康は一家の幸福・明るい家庭にクラブ磨



新鮮な香氣
爽快な味覺
素敵な効力
齒磨界の
ナンバーワン

帖真寫大防國

164

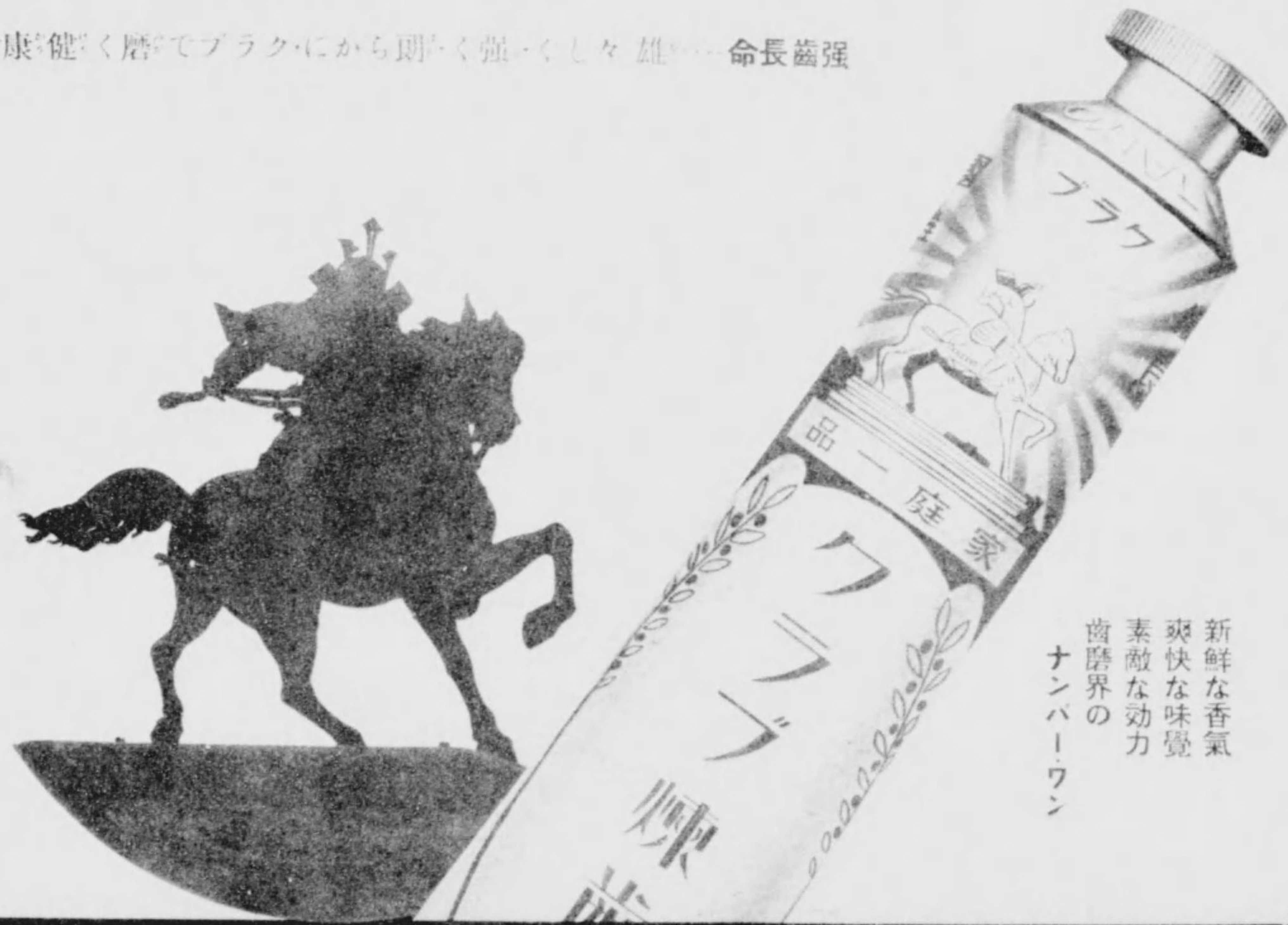


報知新聞社編

磨齒煉 ブラック

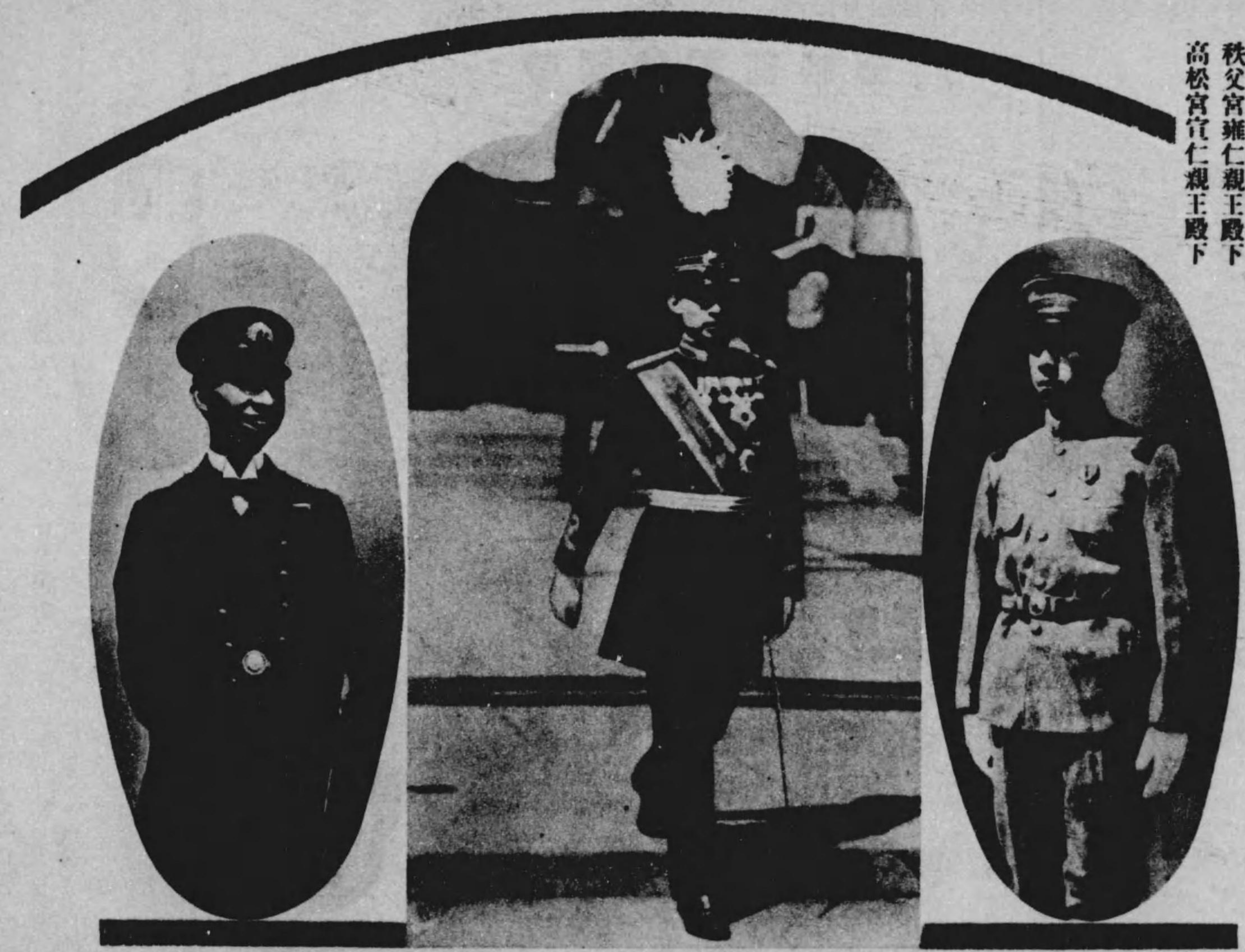
美・康・健・く・磨・で・ブ・ラ・ク・に・か・ら・剛・く・強・く・し・な・雄・命・長・齒・強

健康は一家の幸福・明るい家庭にクラブ歯磨



新鮮な香氣
爽快な味覺
素敵な効力
齒磨界の
ナンバーワン

澄 宮崇仁親王殿下
秩父宮雍仁親王殿下
高松宮宣仁親王殿下



御愛馬白雪に召された
大元帥陛下

帝國海軍總長



七位將領姓名及職銜



七位將領姓名及職銜

帝國陸軍總長



七位將領姓名及職銜



七位將領姓名及職銜

帝國海軍首腦部



第一海軍大臣 山本 五十六 第二海軍大臣 末次 信正
 第三海軍大臣 古賀 峯一 第四海軍大臣 三浦 廣文
 第五海軍大臣 三浦 廣文 第六海軍大臣 三浦 廣文
 第七海軍大臣 三浦 廣文



第八海軍大臣 三浦 廣文 第九海軍大臣 三浦 廣文
 第十海軍大臣 三浦 廣文 第十一海軍大臣 三浦 廣文
 第十二海軍大臣 三浦 廣文 第十三海軍大臣 三浦 廣文
 第十四海軍大臣 三浦 廣文

帝國陸軍首腦部

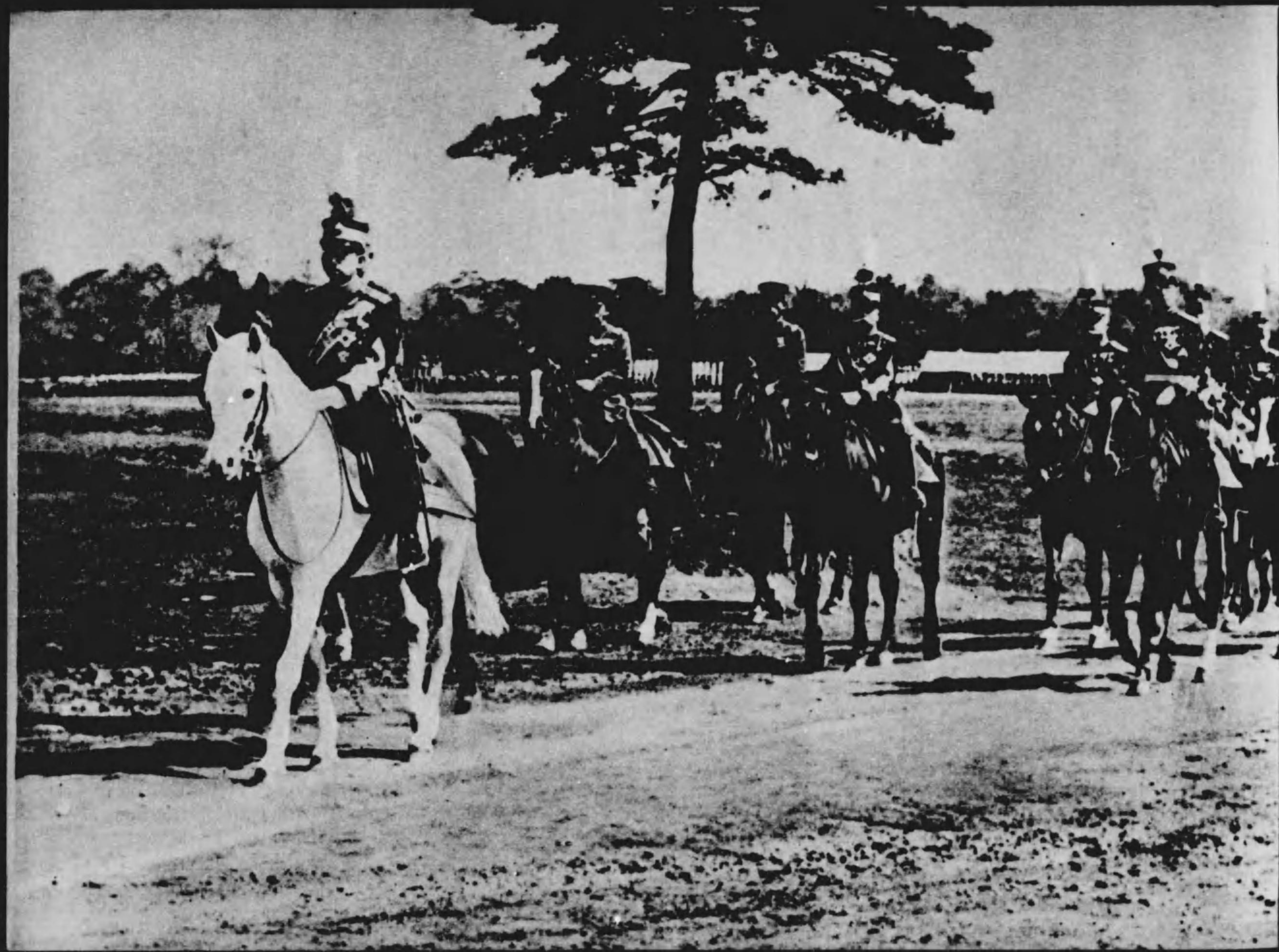


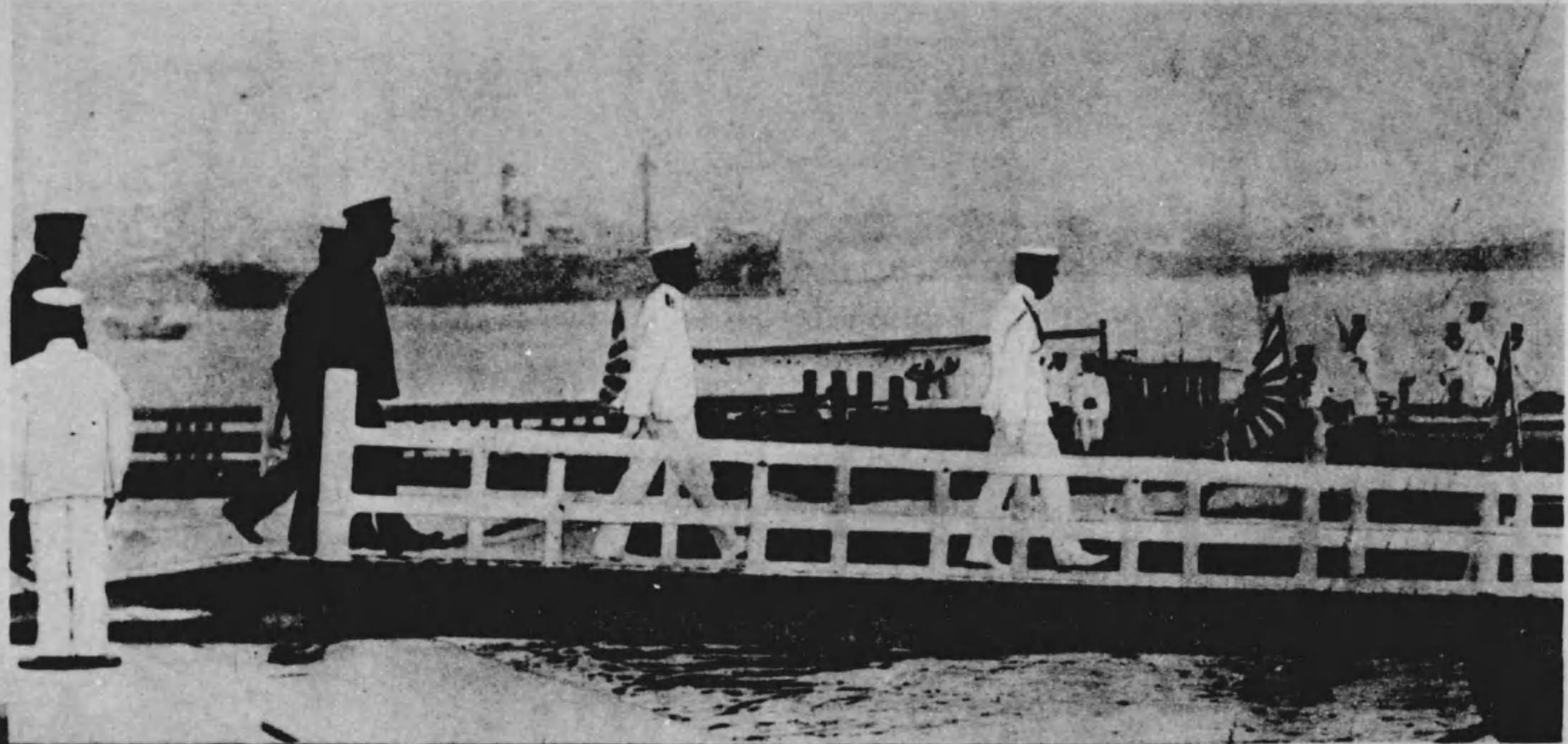
第一陸軍大臣 荒 瀬 浩 第二陸軍大臣 荒 瀬 浩
 第三陸軍大臣 荒 瀬 浩 第四陸軍大臣 荒 瀬 浩
 第五陸軍大臣 荒 瀬 浩 第六陸軍大臣 荒 瀬 浩



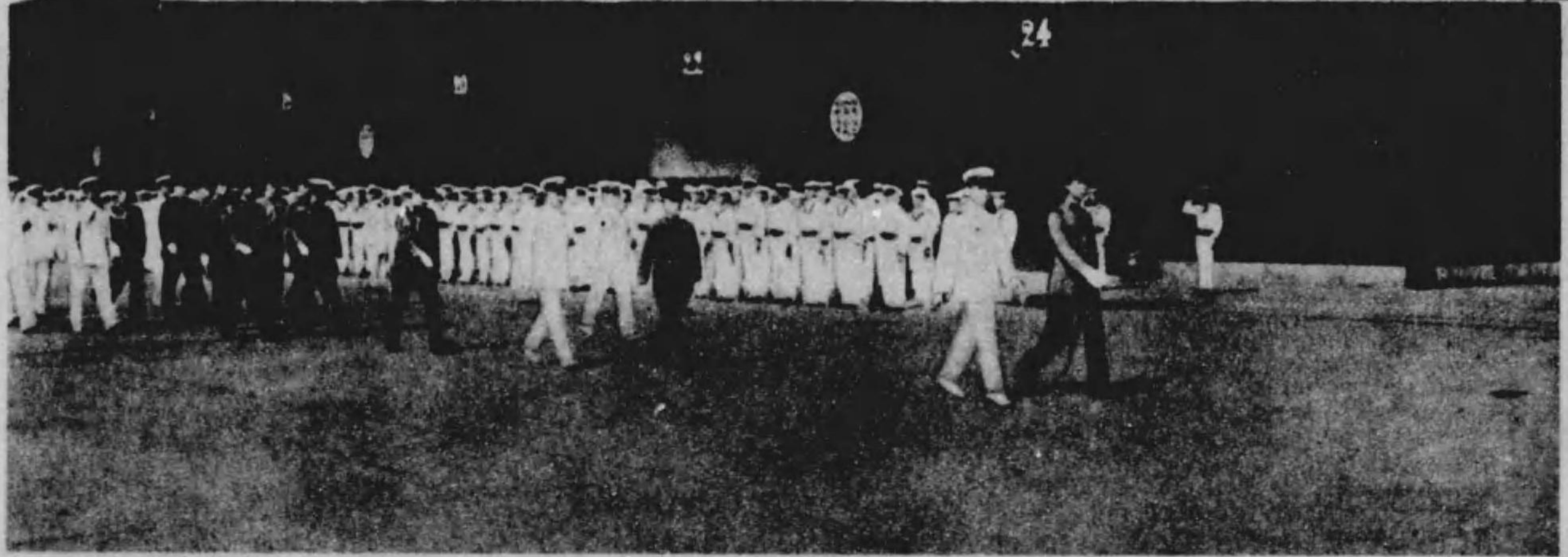
第七陸軍大臣 荒 瀬 浩 第八陸軍大臣 荒 瀬 浩
 第九陸軍大臣 荒 瀬 浩 第十陸軍大臣 荒 瀬 浩
 第十一陸軍大臣 荒 瀬 浩 第十二陸軍大臣 荒 瀬 浩

式兵觀大・り誇の軍陸國帝





口お召艇に乗御せられんとする大元帥陛下
 — 御先導申上ぐるは伏見軍令部總長宮殿下 —



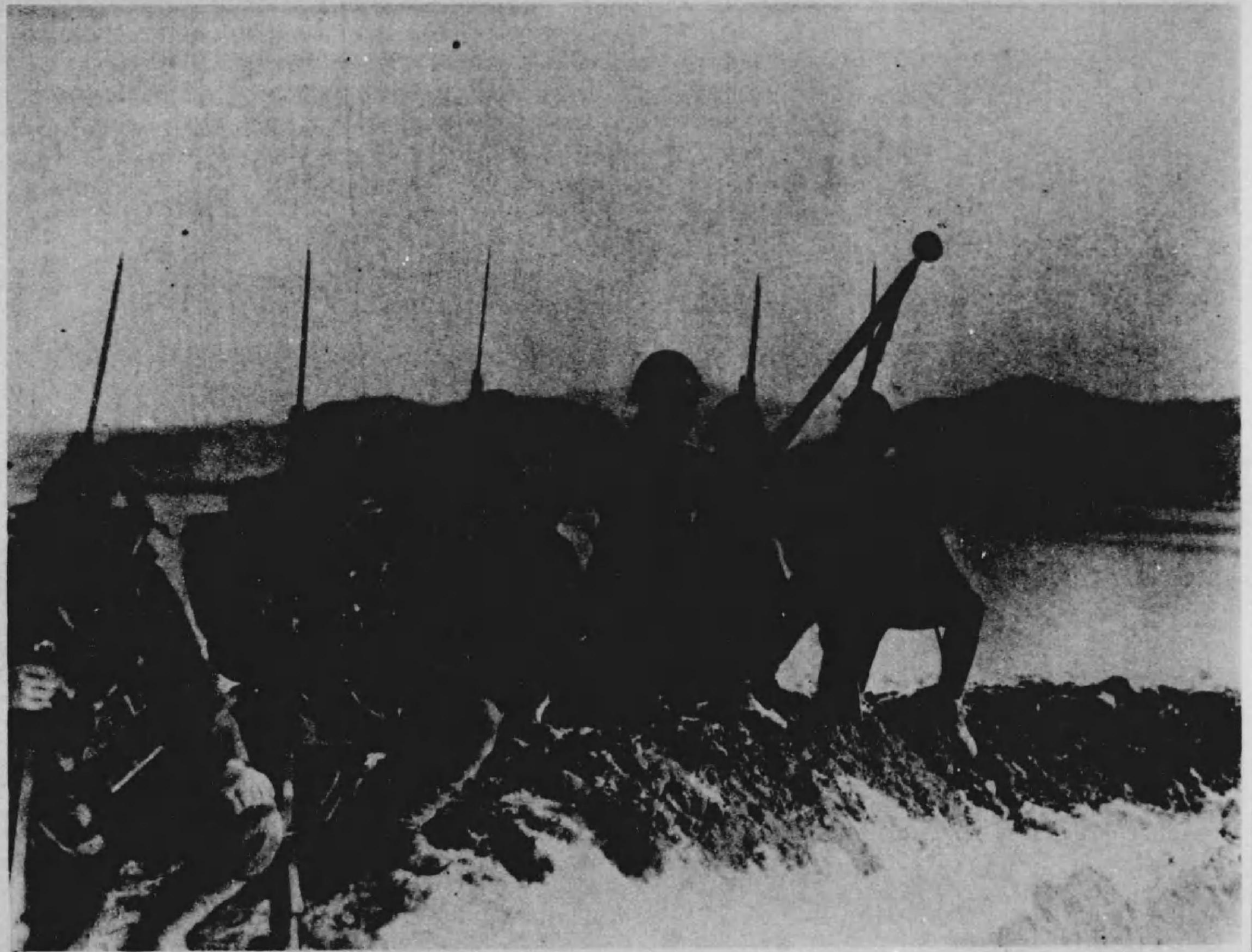
口御陪觀の各宮殿下
 御先頭より
 秩父宮雍仁親王殿下
 高松宮宣仁親王殿下
 閑院參謀總長宮殿下



式艦觀大り時軍海國帝
 — 皇太子御先導は正 —

名譽の聯隊旗

若き少尉の神守する大元帥陛下御親征の軍旗、敵陣に仕れた騎士も最後の息の下から、聯隊旗を拜ませ、
 せて……と叫ぶのだ。けにこの響き軍旗こそ、日本陸軍の守りである。嵐々と野原に響くとき
 百萬の軍隊も一人纏らず、この旗の下に敢然と陣を誓ひ合ふ。



聯隊旗の
 名譽の
 大元帥陛下御親征の軍旗
 敵陣に仕れた騎士も最後の息の下から、聯隊旗を拜ませ、
 せて……と叫ぶのだ。けにこの響き軍旗こそ、日本陸軍の守りである。嵐々と野原に響くとき
 百萬の軍隊も一人纏らず、この旗の下に敢然と陣を誓ひ合ふ。



陸軍行進曲

星へばらし 神武の御
 御魂を導てませ たまひし時
 轟しく陸軍を 導てませたまふ
 御軍神上 日出づる國を
 萬古に護むる 勇健の御
 我等は陸軍人ぞ

三千年來 御まこに
 我等が御魂は 世界に比類き
 尤も尤も わが大将よ
 (軍歌)

御魂の御には 命も魂も
 御を見て進むに 木火も御ませず
 御軍神上 これ御か心
 (軍歌)

御魂の御と 心を二に
 守ると御せし 玉つ御魂
 御魂も御めり 御軍神上
 (軍歌)



名譽の聯隊旗

若き少尉の捧持する大元帥陛下御親授の軍旗、敵弾に仆れた將士も最後の息の下から、聯隊旗を拜ませ
 せて……と叫ぶのだ。げにこの響き軍旗こそ、日本陸軍の守りである。嵐々と曠野萬里に翻るとき
 百萬の軍隊も一人種らず、この旗の下に敢然玉砕を誓ひ合ふ。



機械化兵團

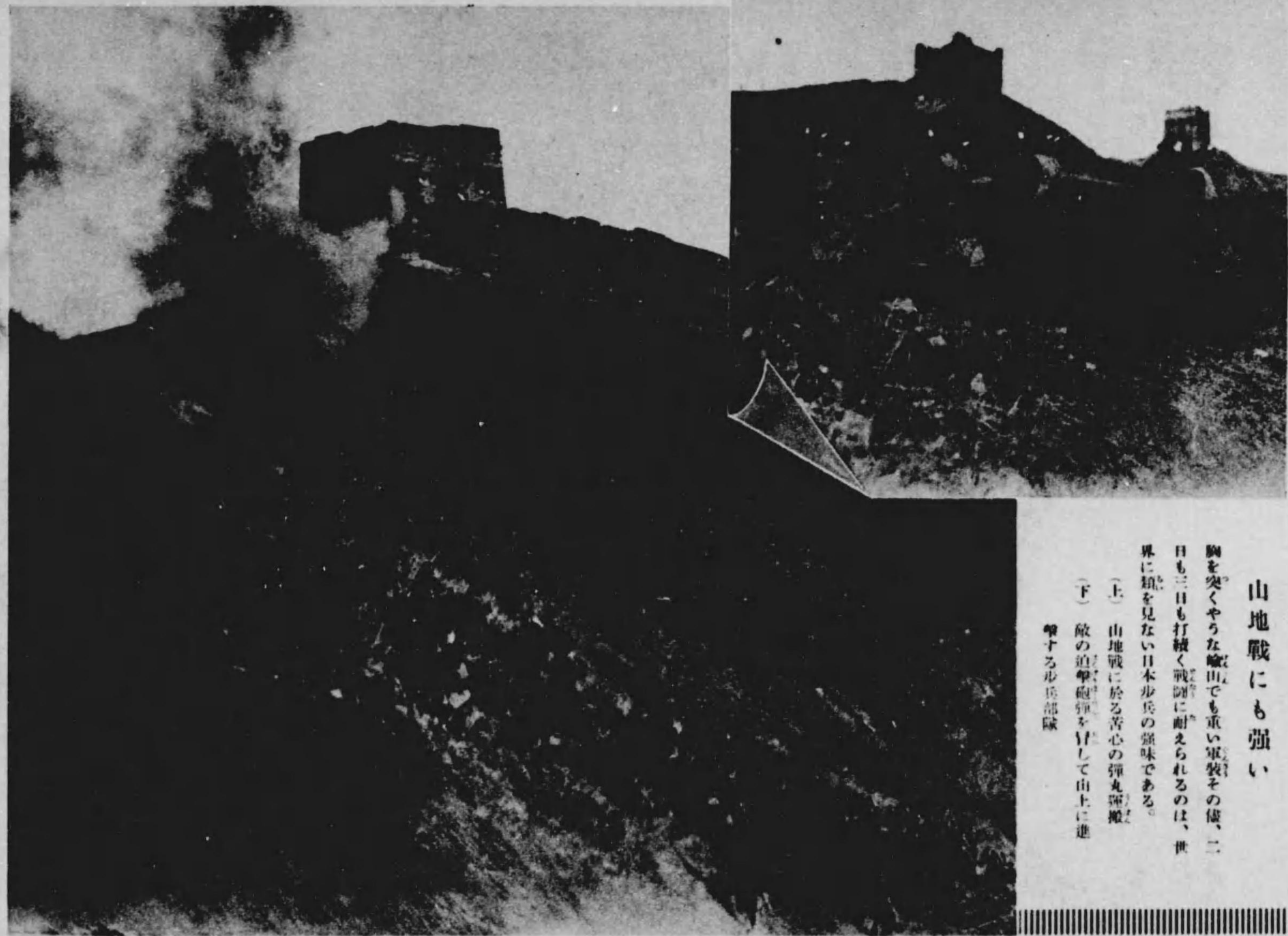
歩兵は歩くもの、といふ觀念は既に古い。今迄々々、想も敵を萬里の外に驅り去るのも、この快速自動車隊に快つことが多い。僅に一日三十里を疾驅して、なほ餘裕餘々たる無遠慮の偉業は、世界を震撼させた。



山地戦にも強い

胸を突くやうな峻山でも重い軍装その儘、二日も三日も打続く戦闘に耐えられるのは、世界に類を見ない日本歩兵の強味である。

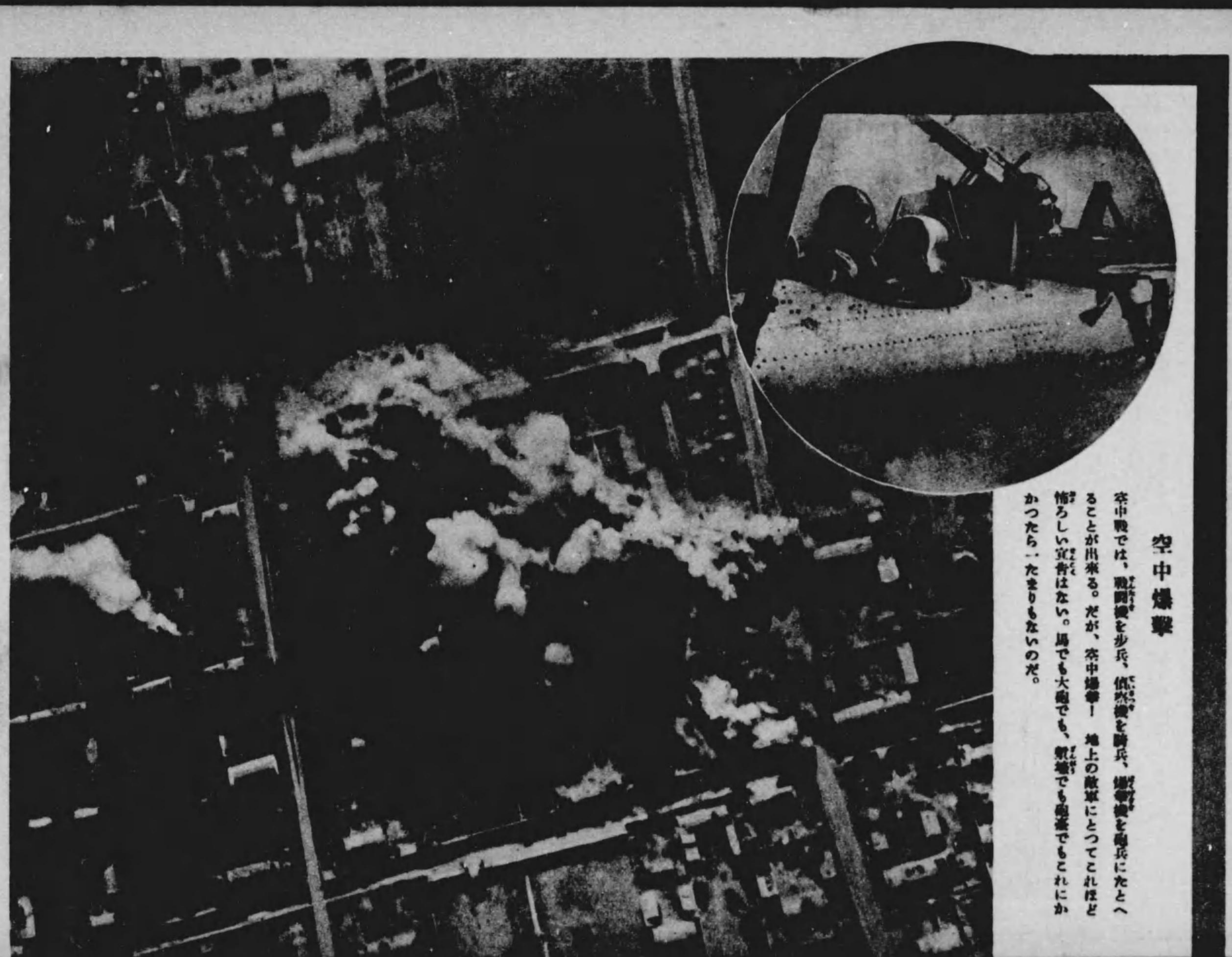
(上) 山地戦に於る苦心の彈丸探險
(下) 敵の迫撃砲弾を甘して山上に進軍する歩兵部隊





大規模な陣地、は軍空が戦つた時にも待てずとんせつをれに舉一てつを形陣

陣地大規模



空中爆撃

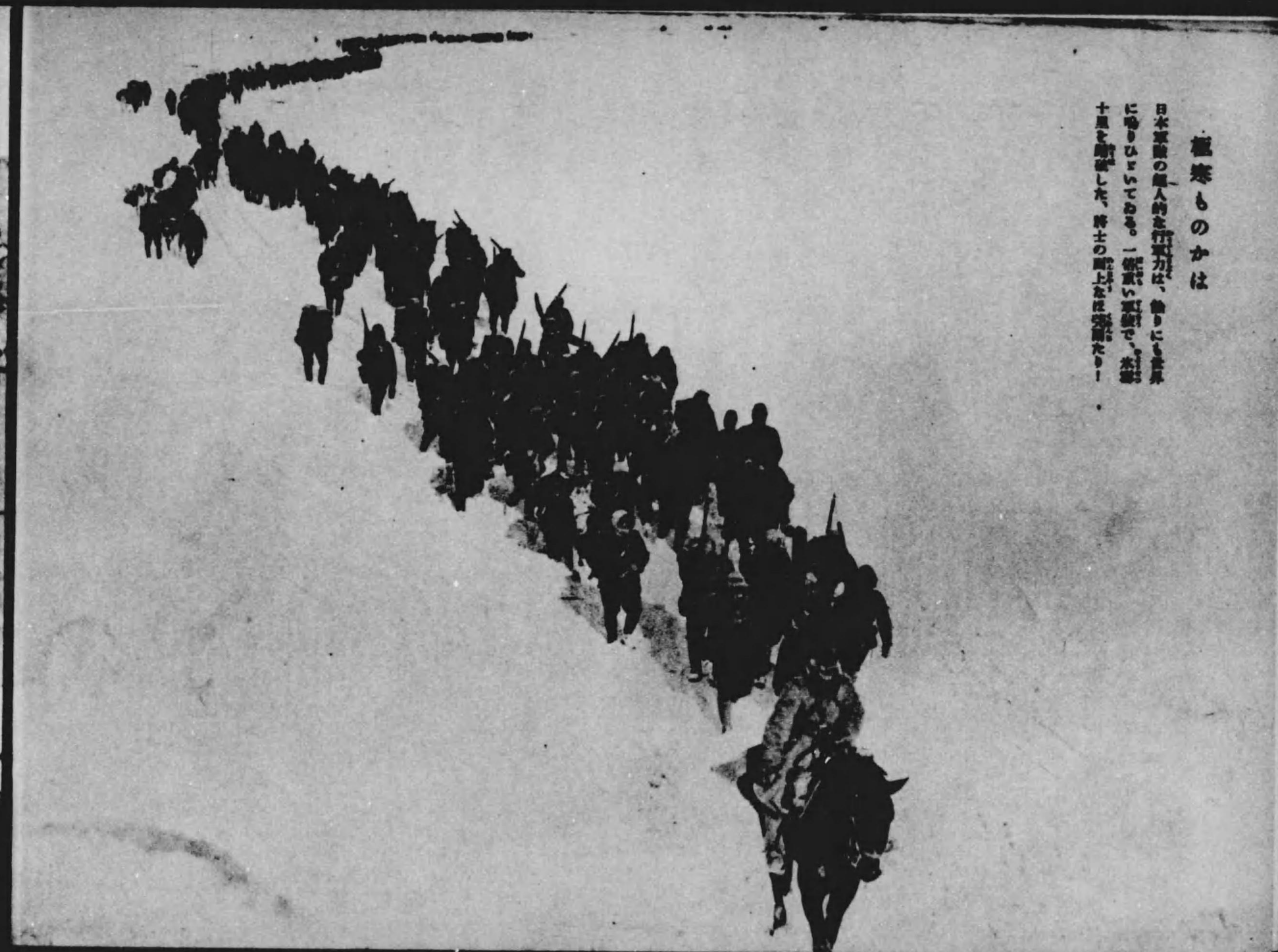
空中戦では、戦闘機を歩兵、偵察機を騎兵、爆撃機を砲兵にたとへることが出来る。だが、空中爆撃！地上の敵軍にとつてこれほど怖ろしい宣告はない。馬でも大砲でも、戦艦でも砲臺でもこれにかつたら一たまりもないのだ。

とくほしな敵入向に戦正 呼歌の激感
軍本日の勝利感に當るこ



極寒ものかは

日本軍の雄人的な行軍力は、餘りにも世界に誇りひびいてゐる。一隊軍の軍旗で、氷雪十里を踏破した、將士の剛上をほやけたり！



とく往しな敵に向て正に 呼歌の激感
軍本日の勝つて戦つたに當るこ



極寒ものかは

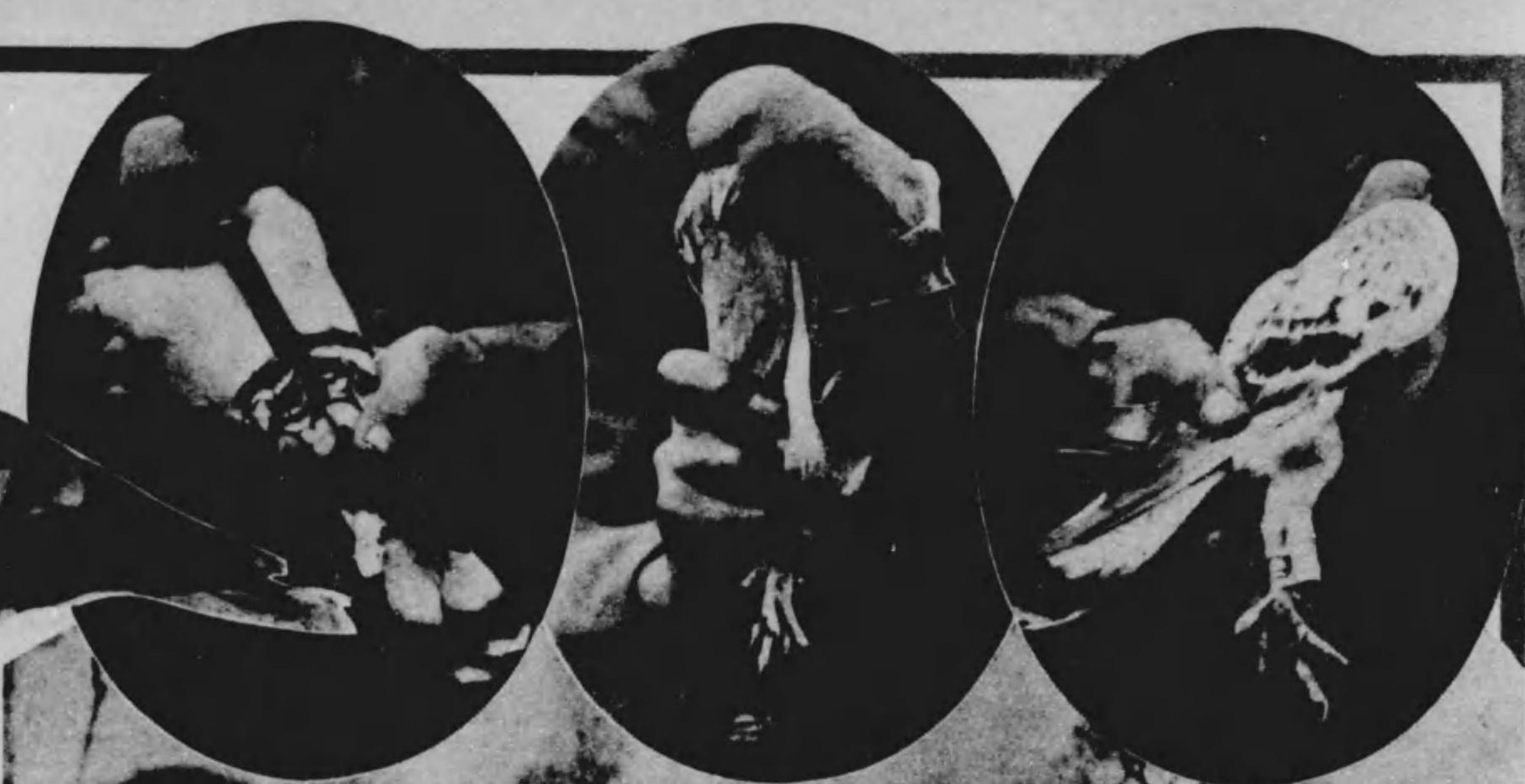
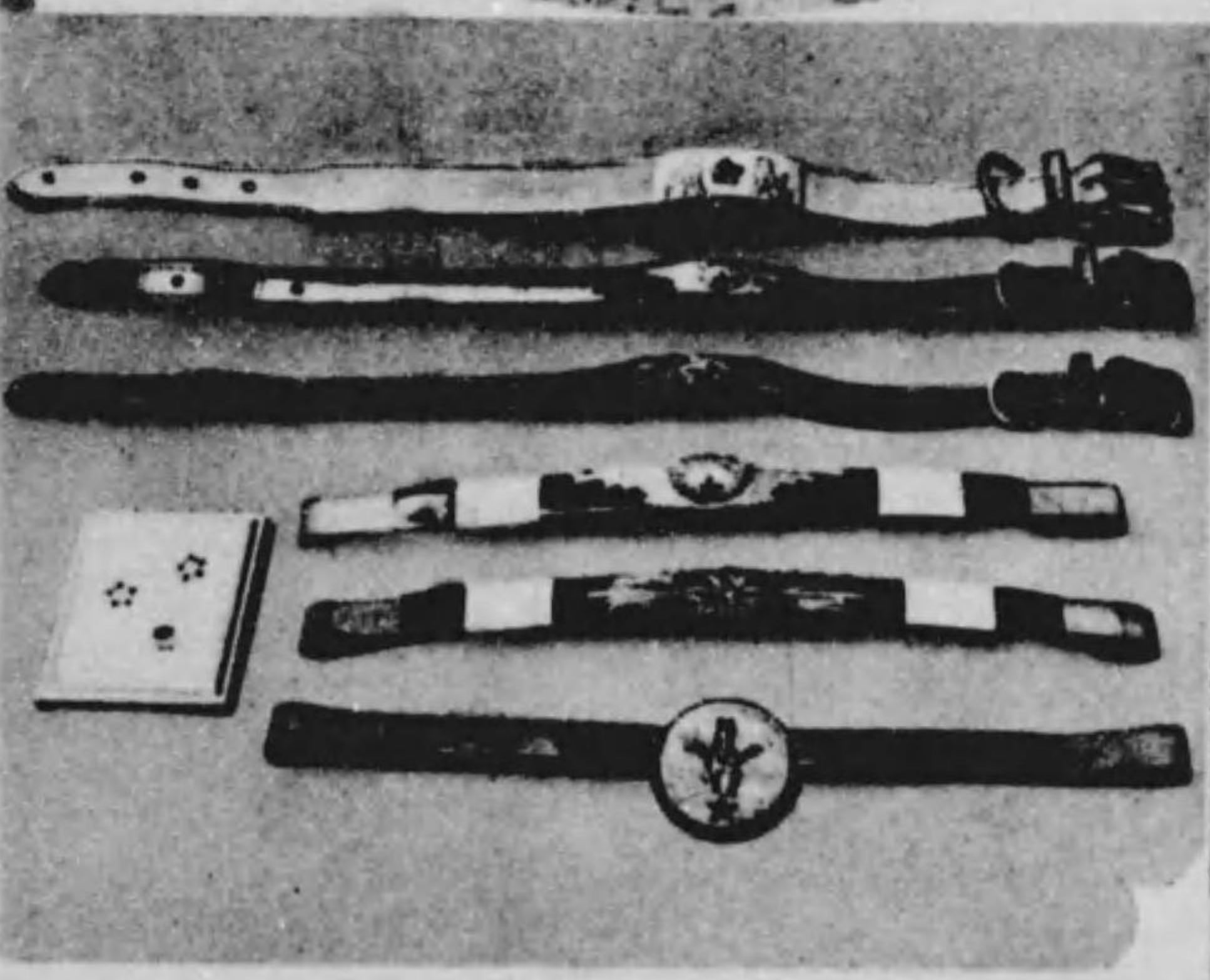
日本軍の超人的な行軍力は、餘りにも世界に鳴りひびいてゐる。一徹な軍装で、氷雪十里を踏破した、將士の面上なほ亮麗たり！



無言の勇士

これからの戦争で、ぜひ忘れてならぬ勇動者は軍馬、軍用犬、軍用鳩などの可憐な勇士達である。彼等は時に兵士以上の勳功を表し、また機械で出来ぬ仕事をも立派に遂行する。

- 上 今まさに敵情偵察の任務に就かんとして勇躍中の軍用犬
- 下右 糧食、薬品を運搬する軍用犬
- 下左 これ等無言の勇士達に愛用される勳章。上の三つは軍馬、下の三つは軍用犬、小隊中の三番は軍用鳩のものです。

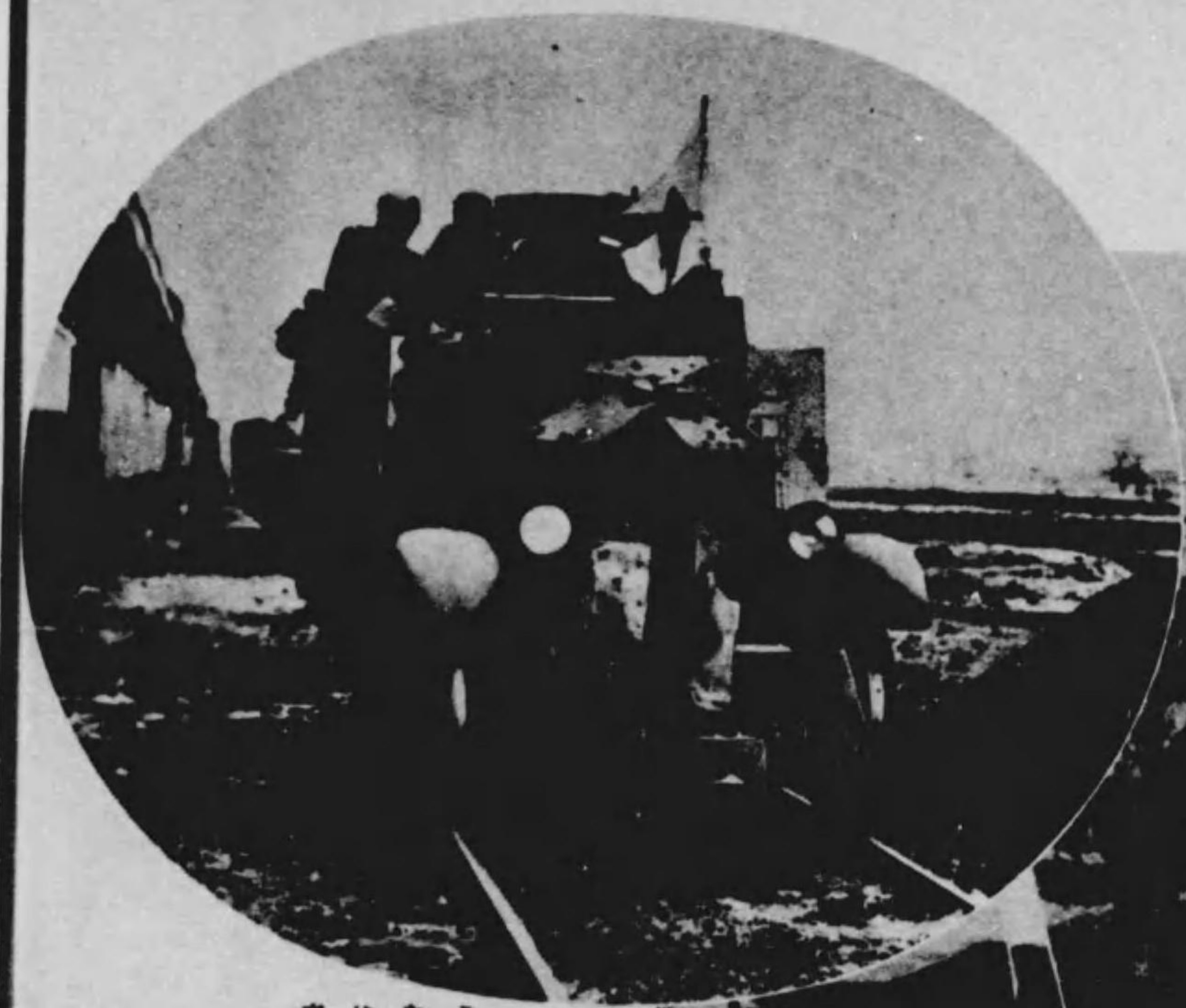
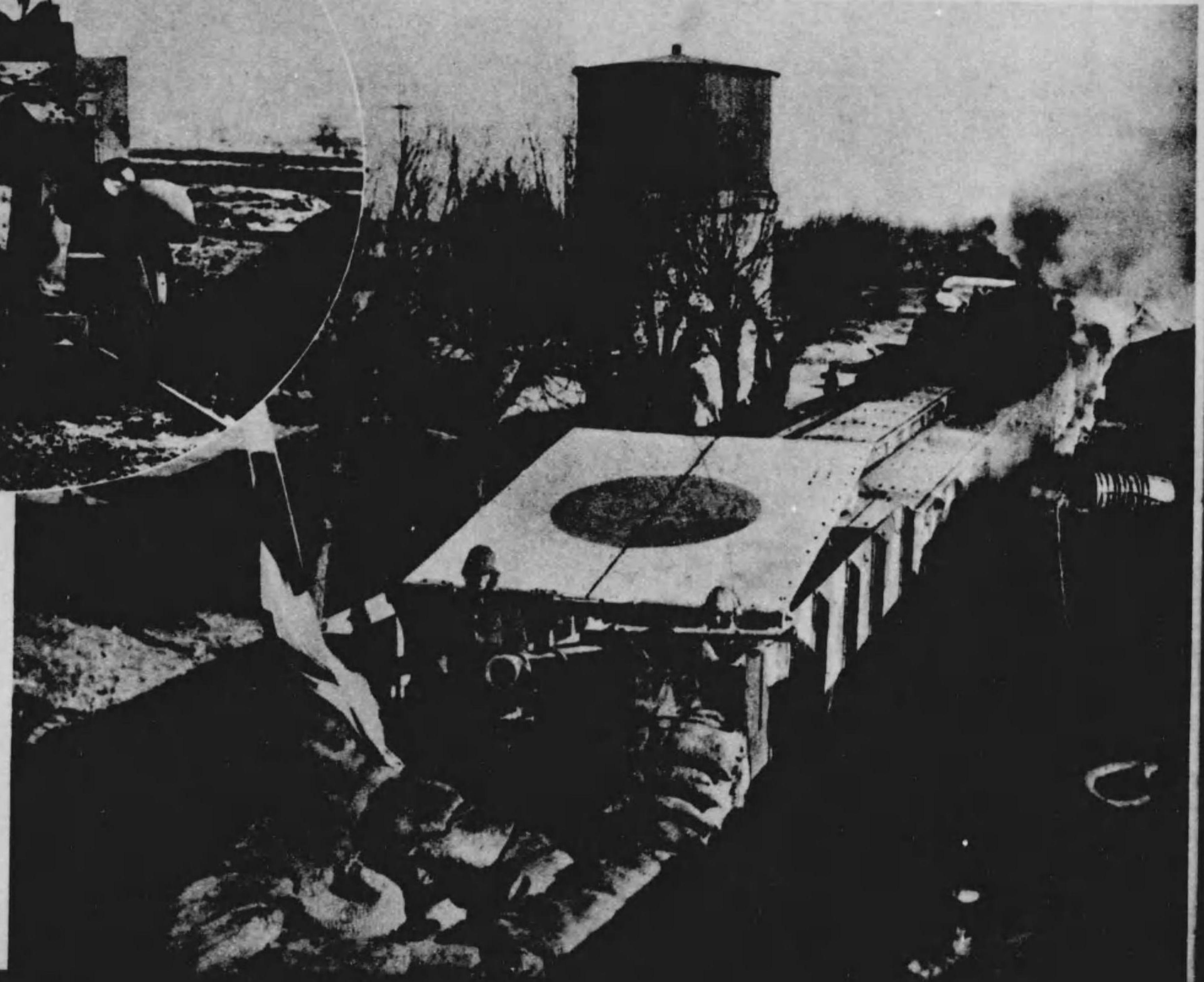


軍用鳩 (上右より)

- ◇ 通信筒をつけたところ
 - ◇ 地圖その他軍用機材を入れる袋
 - ◇ フィルム寫真機を入れる
 - ◇ 偵察用の小型自動カメラをつけた勇姿
- Fは、激戦中の前線から、急を本部隊に告げんとする軍用鳩の活躍場。



装甲列車
 戦場にはげひ無くてはならぬもの——巧みにカモフラージュされた鋼製の列車に、大砲や機関銃を備へ付けて大平原を馳せしめる勇姿は、正に陸軍の雄姿とも云ふべきか。中央の鐵條に推れた日の丸は、友軍の進軍を導くための旗印である。



△ 装甲軌動車
 この機用は甚だ大きい。全車鋼製で覆はれてゐるので、なまなかの小銃などははじき返してしまふ。牽引力の強大なことはもとより、これで用意のゴム輪をはめれば、立派な装甲自動車に早変わりする怪物でもある。



D 前線部隊に弾薬・糧食の空輸
 本陣から遠く前線まで運出した第一線の勇士にとって、弾薬や糧食の輸送はどのくらい重要な事はないか。山岳地帯の険しい地形に、飛行機は最も適した輸送手段である。



病院自動車戦線へ
 山野に仕ると傷病兵を、寸刻を争ふて次々と救済、直ちに萬全の手段を——これも所謂戦はざるの勇士でなければならぬ。



騎兵の襲撃

騎兵は陸軍の華である。何百騎といふ騎兵集団が砂塵をまき上げ、無反りの軍刀を振りかざしドツと襲撃するさまは、壯烈真に賞讃に絶する。ことにこれからの騎兵は機關銃、騎砲、更に裝甲自動車まで持つことになるから、その雄健果敢な行動と共に、さぞ大軍の心腹を寒からしめるであらう。が、軍隊の眼としての騎兵斥候が、いつになつても大切な事に變りはない。

現代の化學戰には、馬も人もこんな恰好をしなくてはならぬ。毒瓦斯を防ぐためである。



肉弾戦へ！

彼等の距離は目睫に迫つた。敵の機銃網もすでに一角は切り開かれた。この上はたゞ突撃あるのみ、何れも塹壕から飛出して最後の肉弾戦へ！壯烈無比な白兵戦は、自他共に許す日本軍隊の獨壇場である。

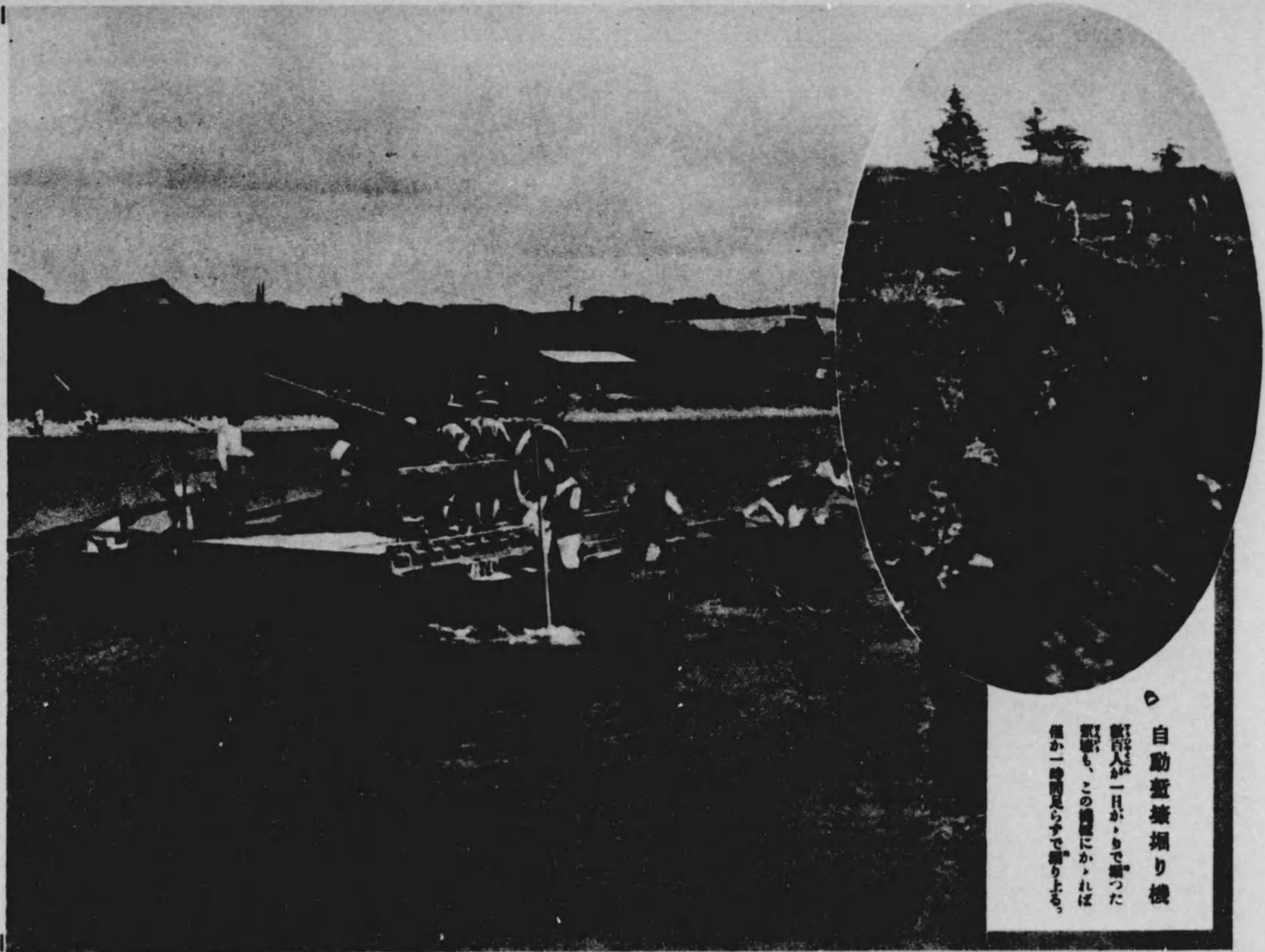


塹壕戦

近代戰の立體化は空中に航空機を飛ばせ、地中に大仕掛な塹壕戰を招來した。長期戰になると、ビルディングの地下室など船負けのものまでが構築される。

砲兵の渡河

重いく野砲でも重砲でも、橋舟を繋ぎ合せて作った渡船で何の苦もなく渡り切る。敵前に於けるこの雄大な渡河工作は、世界に知られた日本工兵の誇りである。

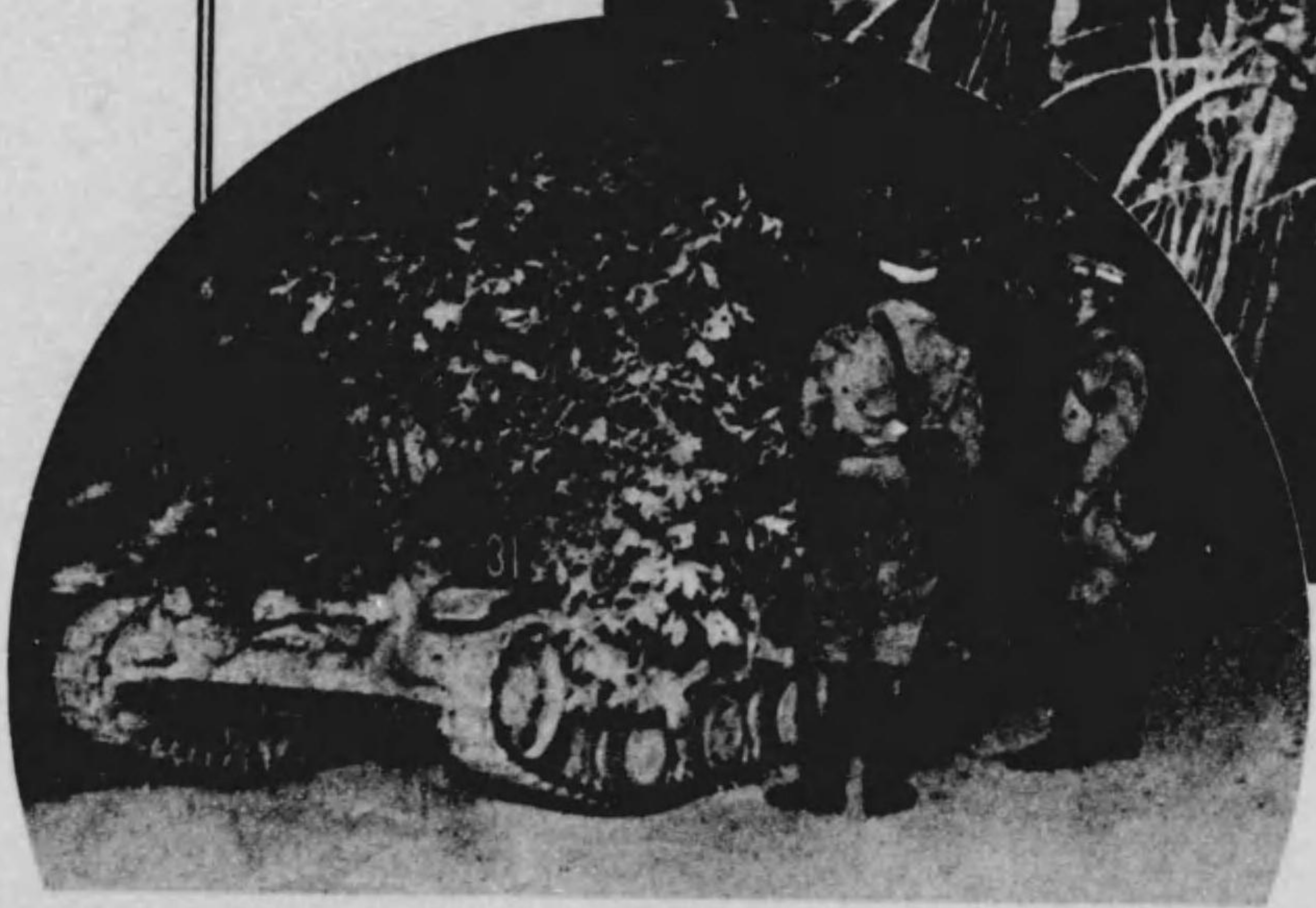


自動重機掘り機
 敵百人が一日がかりで掘った
 溝も、この機にかかれれば
 僅か一時間足らずで埋り上る。

== 装 偽 ==

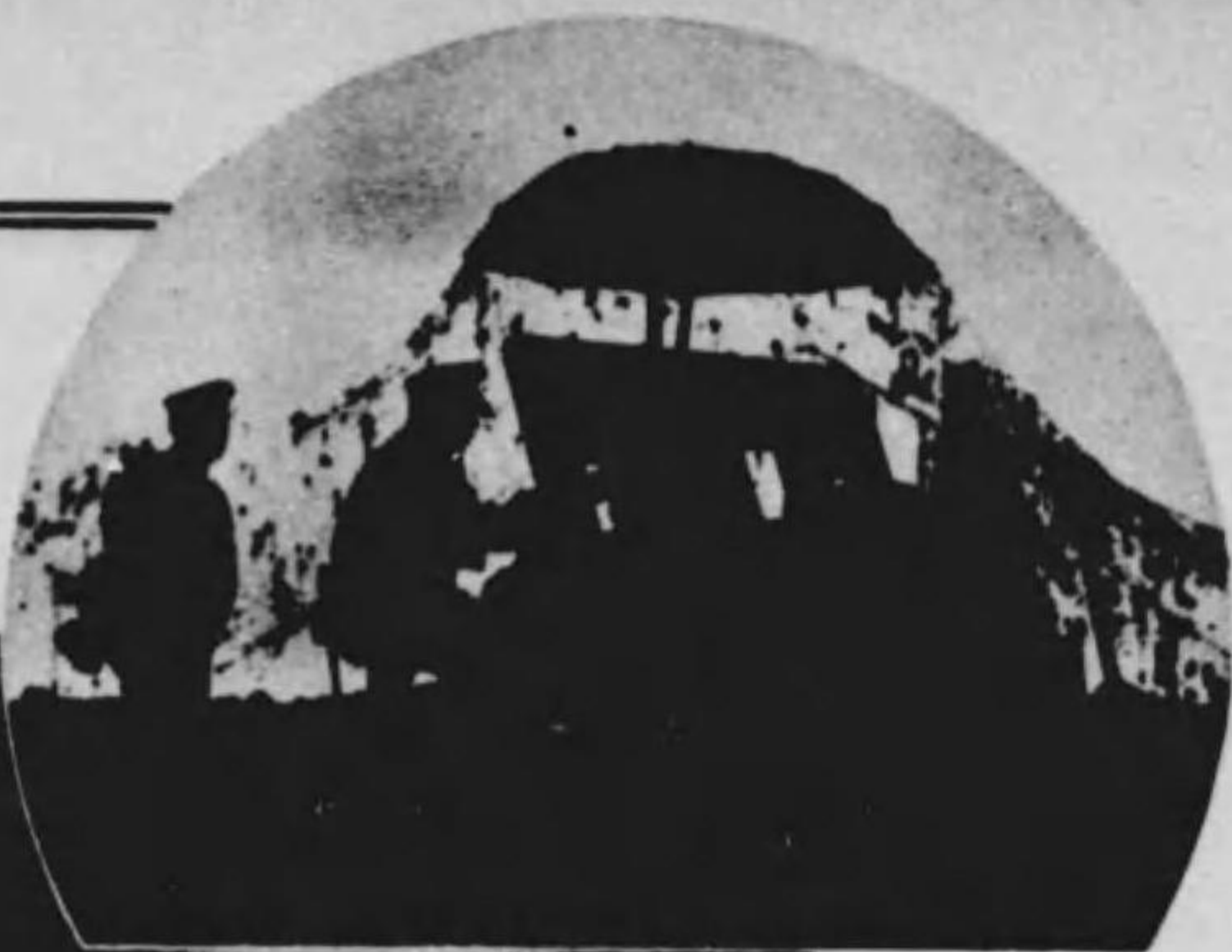
ユジーラフモカ

小山のゆるぎ出すやうに、大木を生やして敵をつくらせ。



害虫のやうに、木の葉や雑草でからだ中をくるんだ歩兵隊。

大きな布傘をかざし、捲いた網に草をつけて、敵機の眼をのがれる砲兵陣地。





△敵陣迫る!!
敵の大軍今や指呼の間^{さしつかえなく}に在り。鐵兜^{てつたて}のあご紐^{あごひも}締め直し、着剣^{ちやくけん}躍々^{よくよく}しく陣開^{じんかい}敵^{てき}に出た歩兵部隊、勇むその足並^{あしなみ}にも決死^{けつし}のさまが見える。

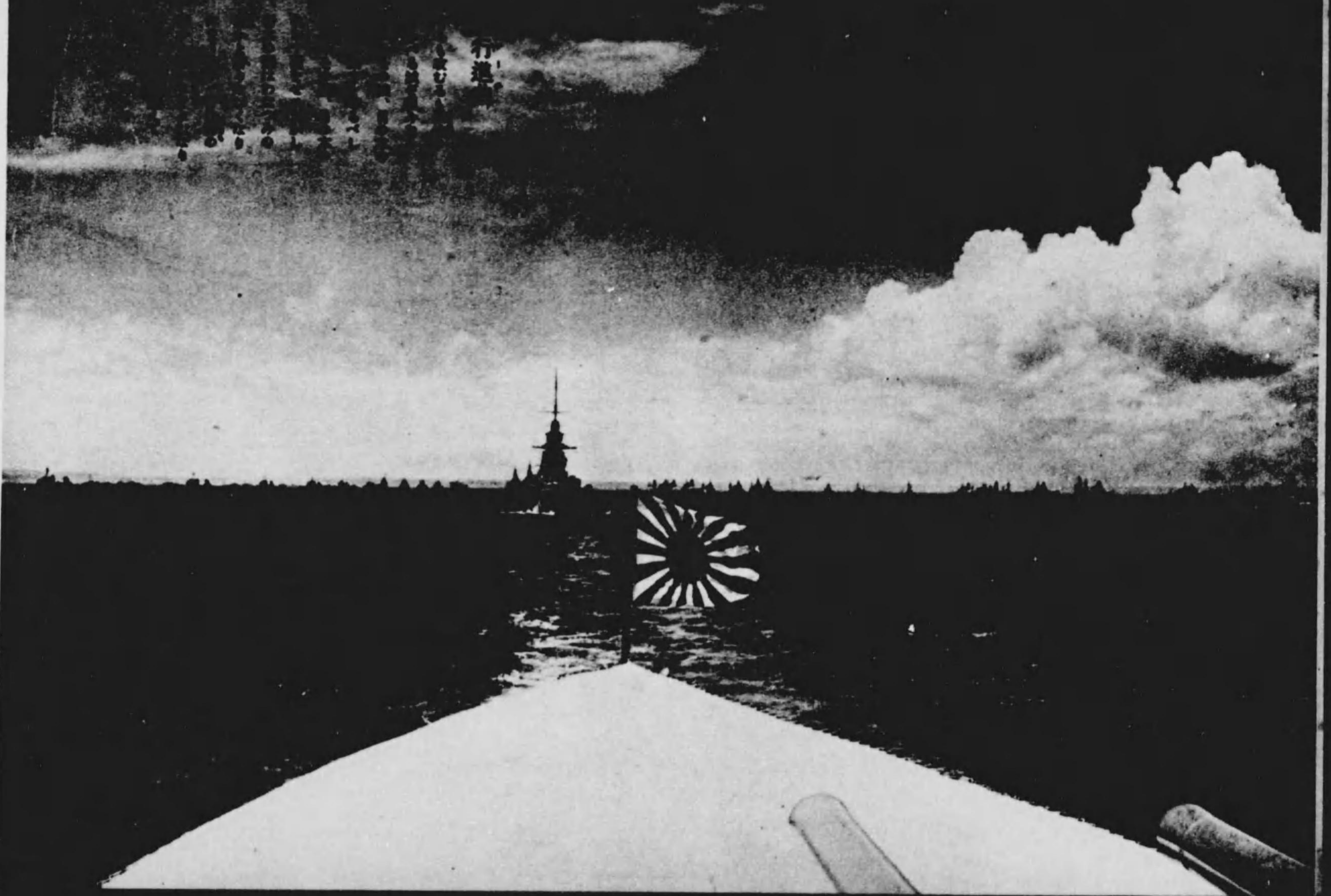
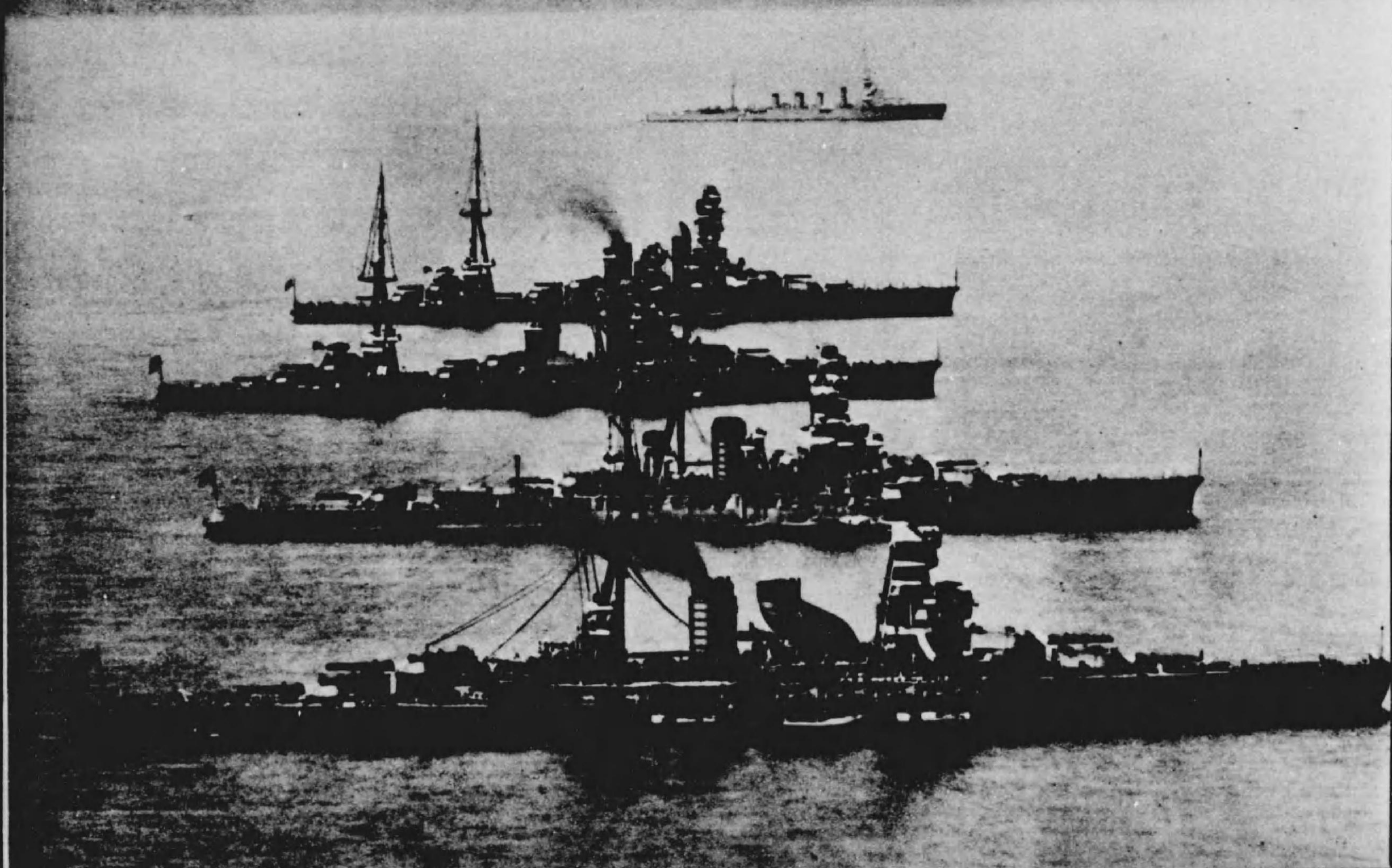


吹雪を衝いて
零下四十度、烈しい吹雪の中を疲勞^{つかう}や空腹^{くわふ}と闘^{たたか}ひながらも、なほ数十倍に餘る敵の大軍を挫^{くじ}ぐ我が挺身^{ていしん}部隊の勇姿よ! 日本陸軍は寒地戰^{さんちせん}にも斷然^{だつぜん}強い。外妻^{そとづま}の上に着た白衣は、積雪^{せきせつ}地帯のカモフラージュ



決死隊
「山ゆかば苦むす屍」と譽^{たか}ふ將士の中でも、進んで死を運ぶ肉弾^{にくだん}勇士の行動は、世界に高く大和魂^{やまとたま}の精華^{けっしょう}である。陛下の御爲^{みこのため}め、皇國の爲^{みくにのため}めには、笑つて死に赴^{むか}ひ大和男子のある限り、我が帝國の麗^{うつく}しきは磐石^{いばんせき}の上に在る。

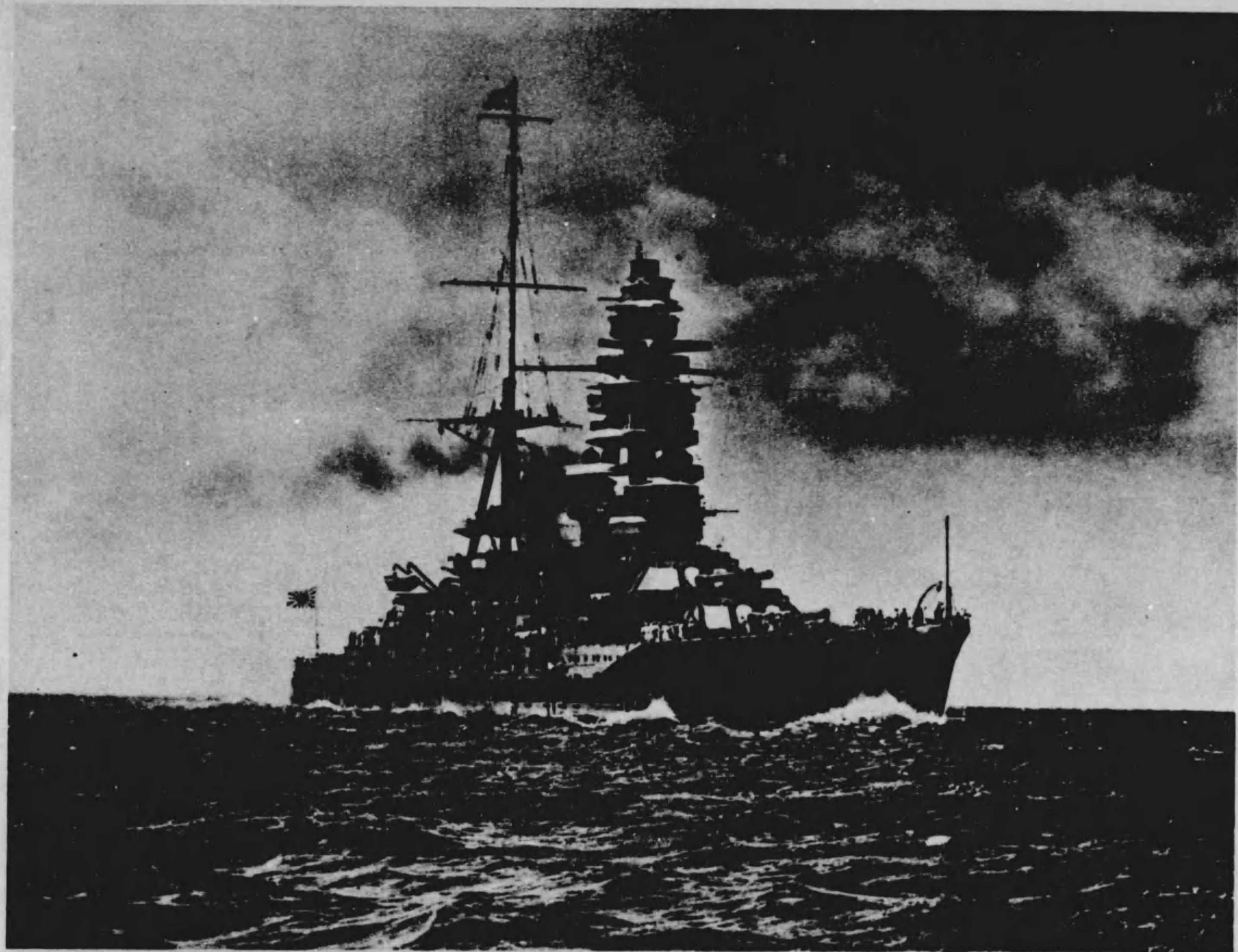
艦力主が我の中機待とかつど！敵無下天
阿波海軍艦隊 向島・島田・島田・門司・門司・門司



浮城のやうな陸奥

長門と共に日本が世界に誇る超巨艦で、排水量實に三萬二千七百二十噸、四十糎砲八門と十四糎砲二十門、それに魚形水雷發射管八個は泰然と無氣味な沈黙を守つてゐる。その一千四百名の乗組員は立派な聯隊にも比すべきである。

松本青山寫

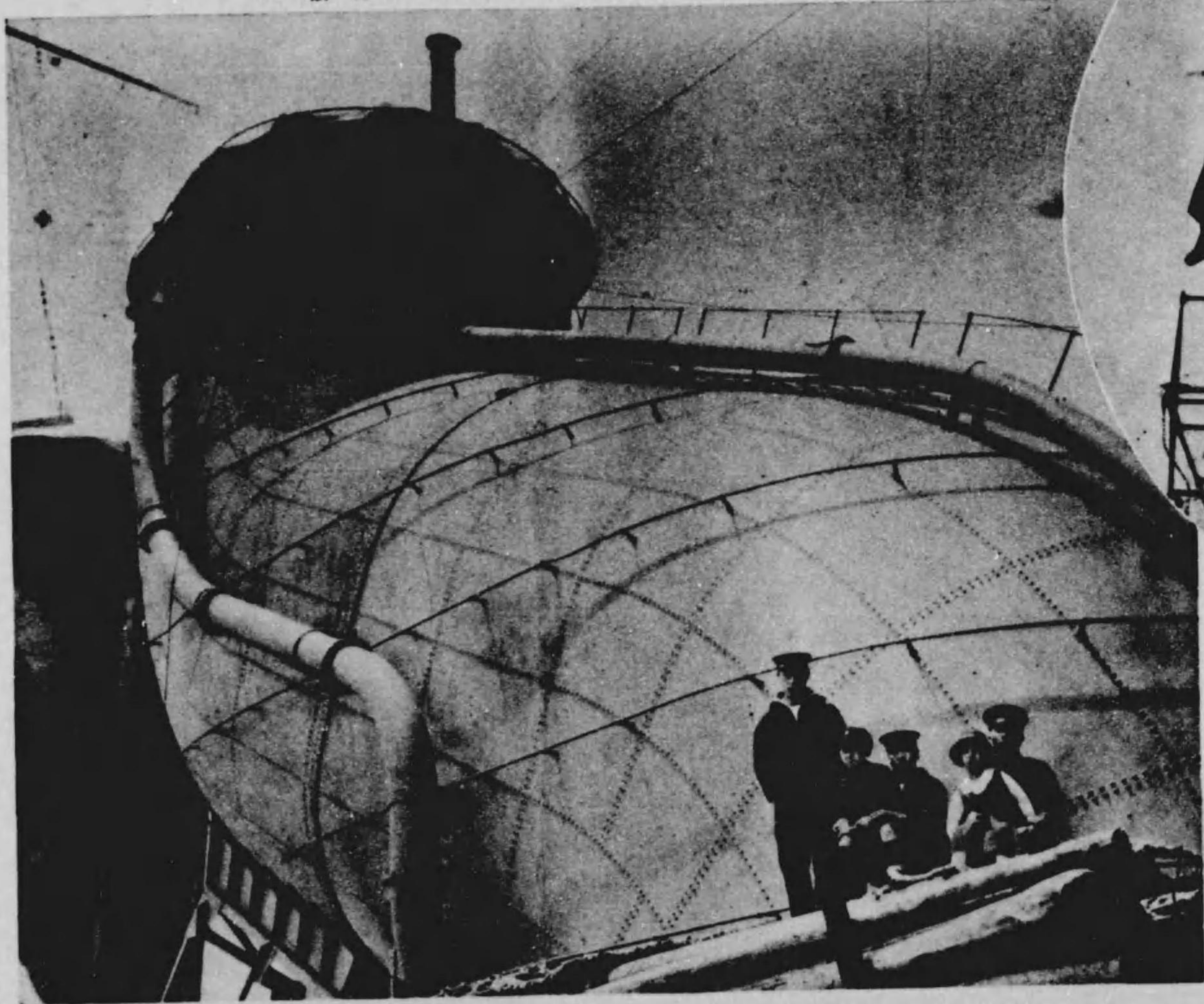


嘯く四十糎砲

こんなのが二門づゝ砲塔内に裝備せられてゐて自由自在に旋回する。砲身の長さ十間餘、重さ三萬貫、射出される二百六十貫の弾丸は七里半先の敵艦を撃沈す。

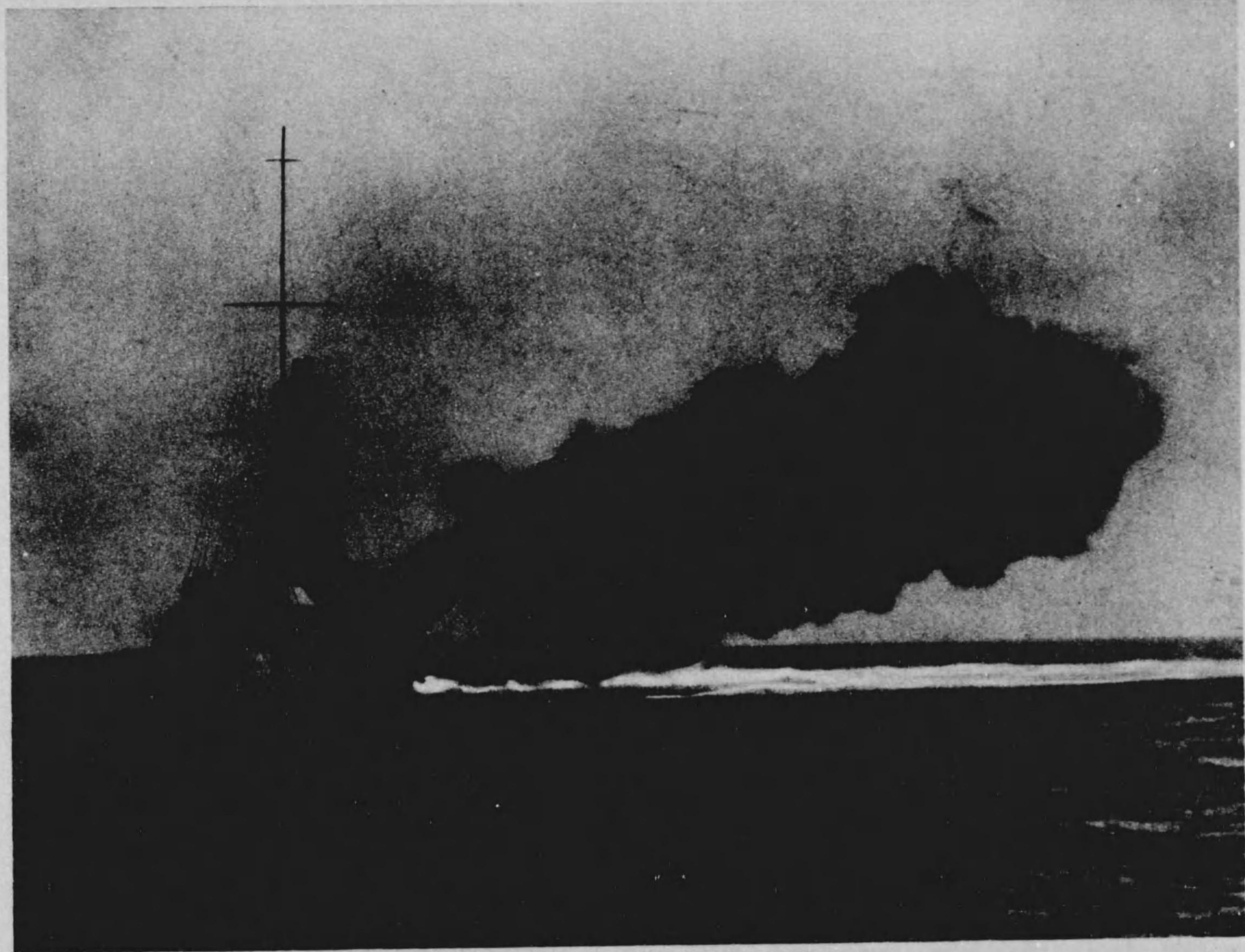
大煙突

見るからに雄大なこの恰好は日本特有のもの、前部司令塔に熱氣を避け、石炭の燃焼量を増大するのがこの型の誇りである。上部の口には實に煙十八枚が敷かれる。



神速機敏、胸のすく水雷戦隊の駆引

三十四節以上のフル・スピードで波を蹴破り敵艦隊に肉迫するや、サツと射出得意の魚雷、しかも間髪を入れず左右に分れて、敵の腹背を衝かんと第二陣の構へに！我が驅逐艦の大膽不敵な行動は絶えざる列強の脅威である。



天をゆるがす長門の齊射

いよ／＼砲台開始！四十種の主砲八門が一齊に火門を開けば、さすがの巨艦も一瞬式者震ひし、海面はまつとしよきで掩はる。

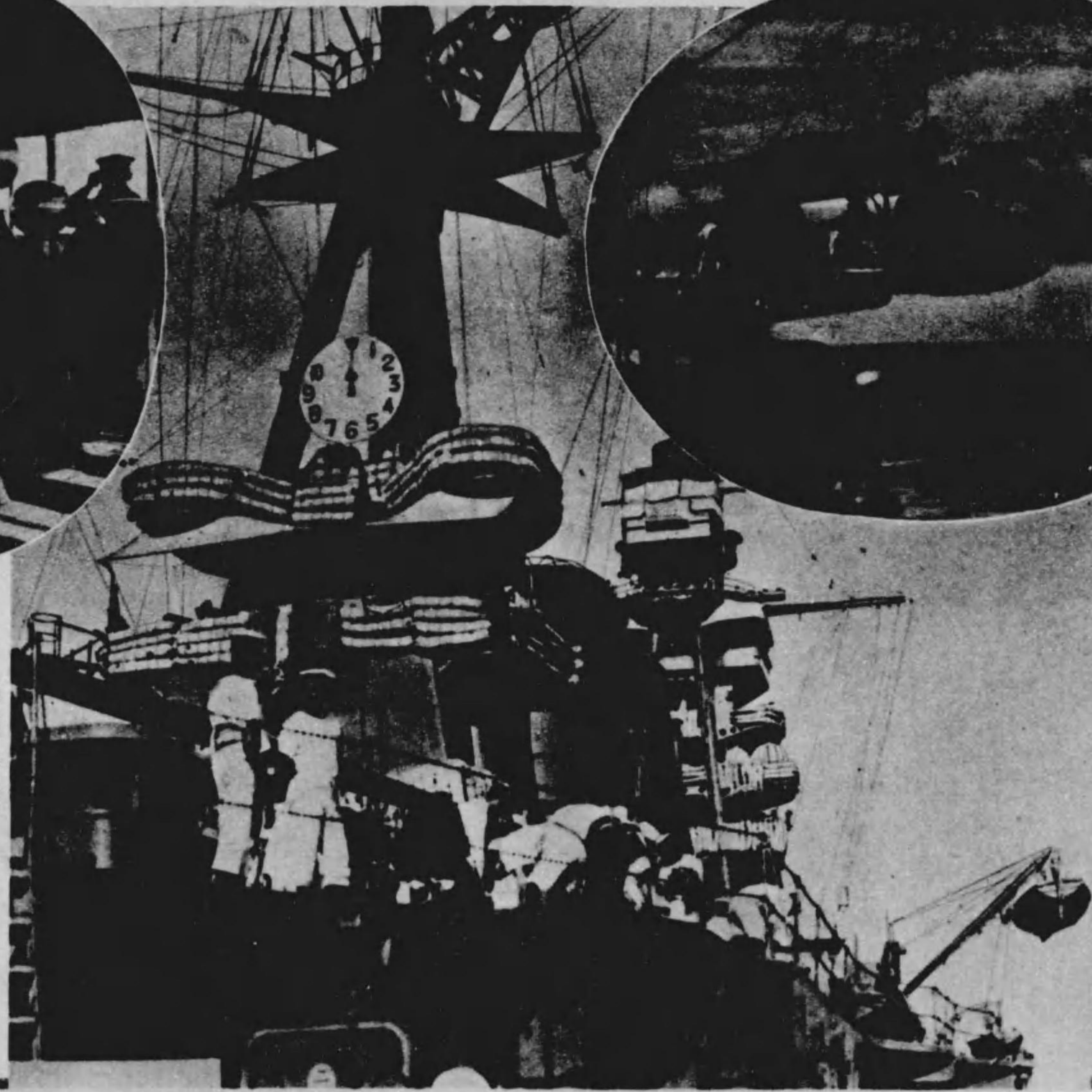
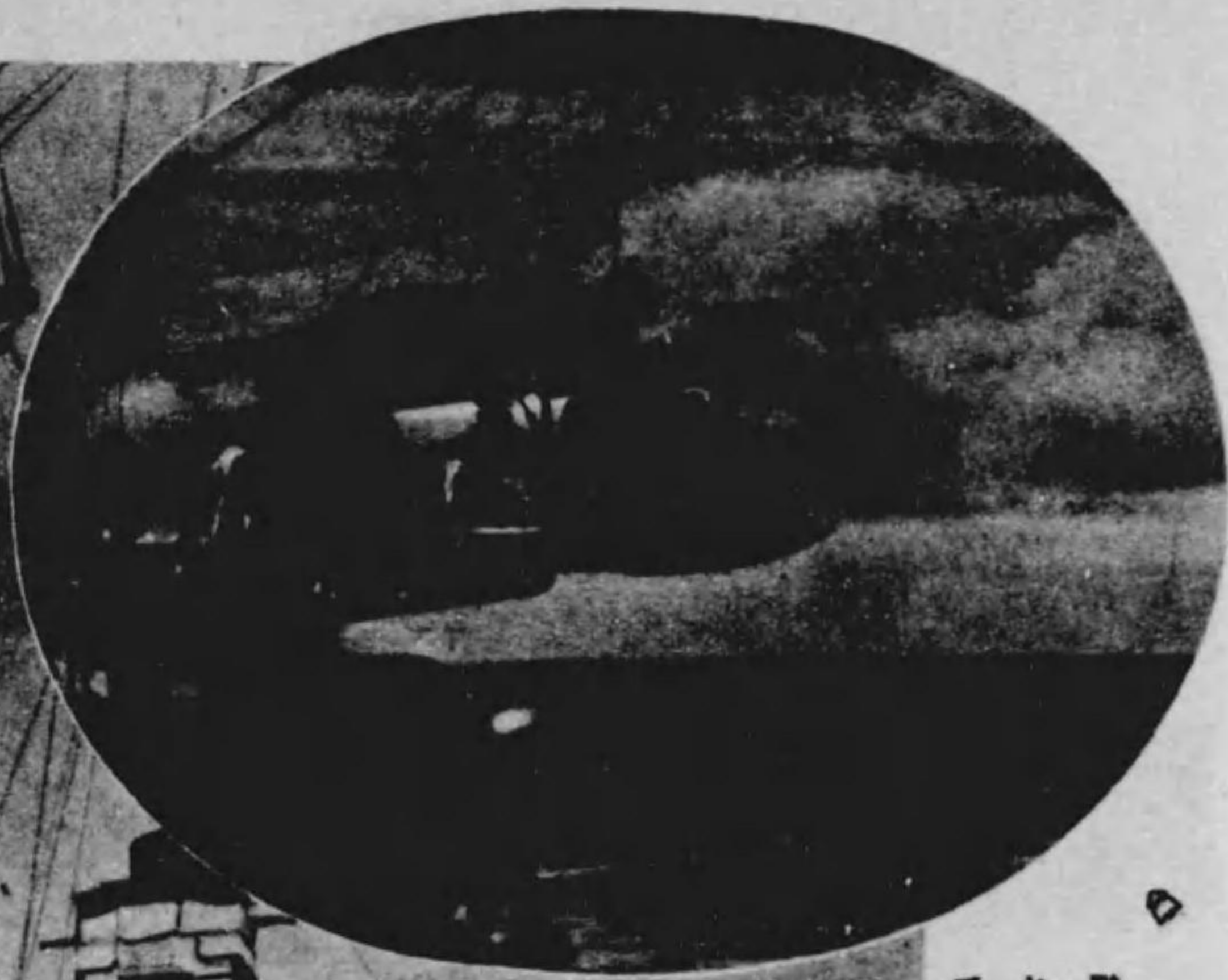
海の移動飛行場

航空母艦「赤城」

赤城は、日本が世界に誇る最新鋭の動く飛行場だ。全長240メートルの甲板上には、六、七十機の飛行機が並べられ、いつでも飛出せるやうに持ち備へてある。「加賀」と並んで世界最大航空母艦を競争してゐるのだ。しかも、米国のサラトガよりは噴煙こそ少ないが、すつと推進力も大きいし、艦力も優つてゐるといわれる。またサラトガと違って、飛行甲板に司令塔や砲塔や煙突のやうな邪魔物を持たないのは、今や列強注目の的である。

—松本青山画—

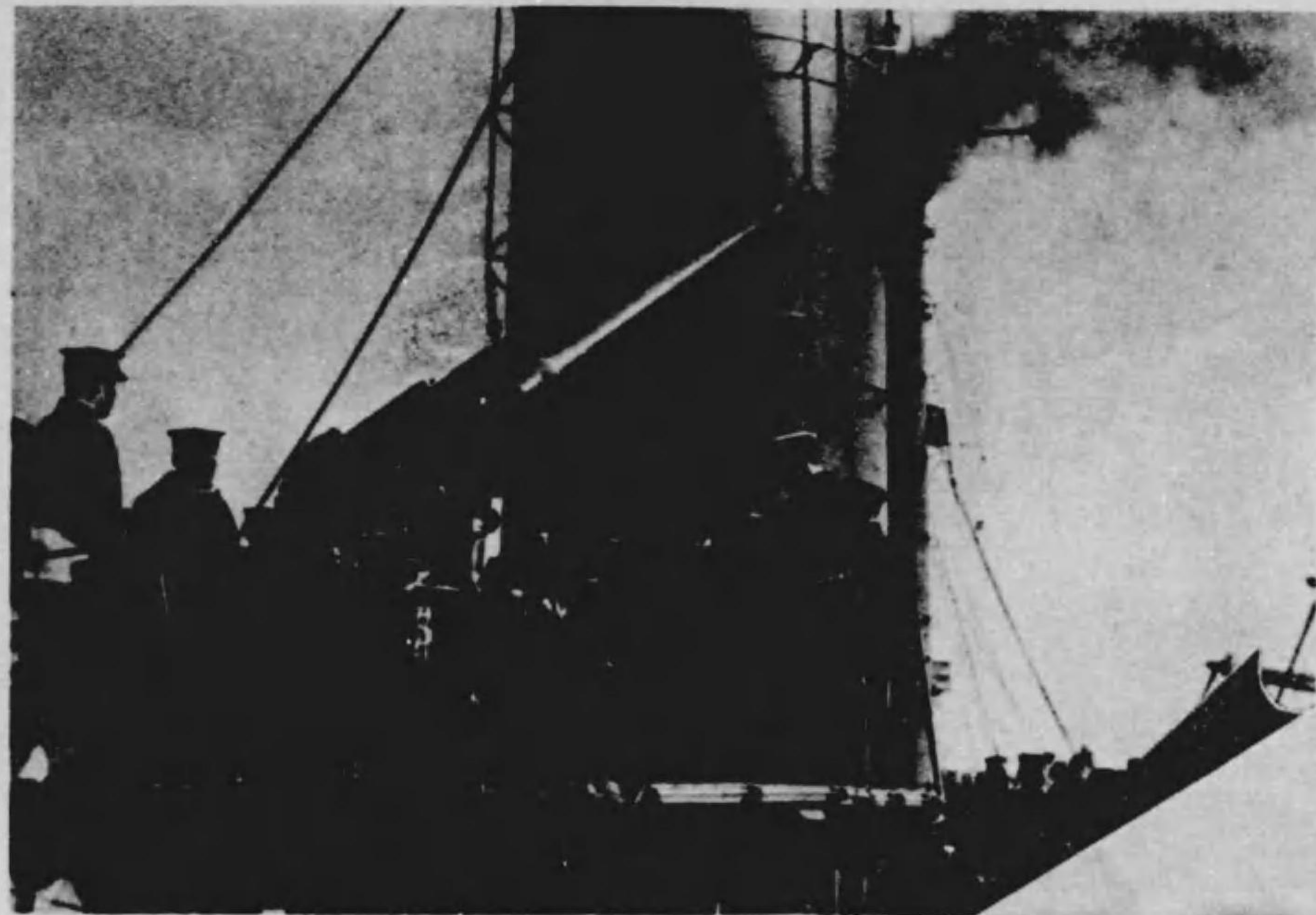




D 臨戦準備
 いざ開戦となれば、甲板から欄干その他の邪魔物が
 取除かれ、重要な箇所は銃具で掩はれる。次いで、マ
 スト中央の時計型信標板には、射程距離がはつきりと
 表示されるのだ。

敵艦見ゆ!
 司令塔上の傳言口からは、砲々と砲塔内に向つて射撃距離が放
 される。こゝは實に大砲の中樞神経といふ處。

カタバルト
 戦艦、巡洋艦になると、みなこのカタバルトを持つてゐる。こ
 れで素早く艦載飛行機を射出すから、いかな激浪の日でも決し
 て滑走の心配は要らぬ。

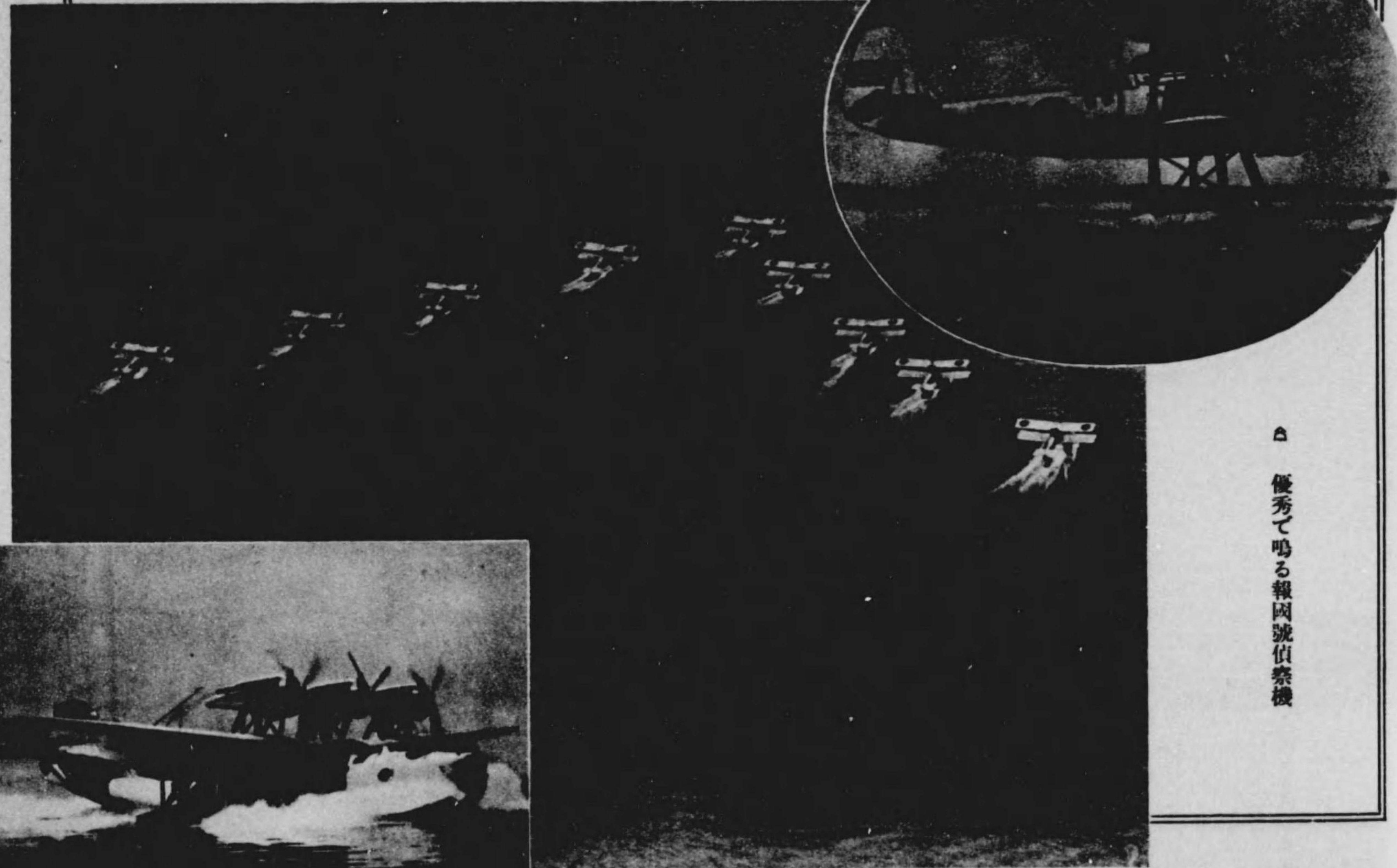


敵機来る!
 精巧無比なこの高角砲に狙はれ
 たら最後である。日頃鍛へた狙
 ひの前には、いかな敵機もバク
 バクと射落されてゆく。

D
いきり立つ艦側副砲
 さらり口を開いた副砲は、時々主砲はだ
 しの偉功を發揮する。窺ひ寄る敵の水雷
 艦隊など、この一齊射撃をうけたらチ
 ツと手も足も出まい。

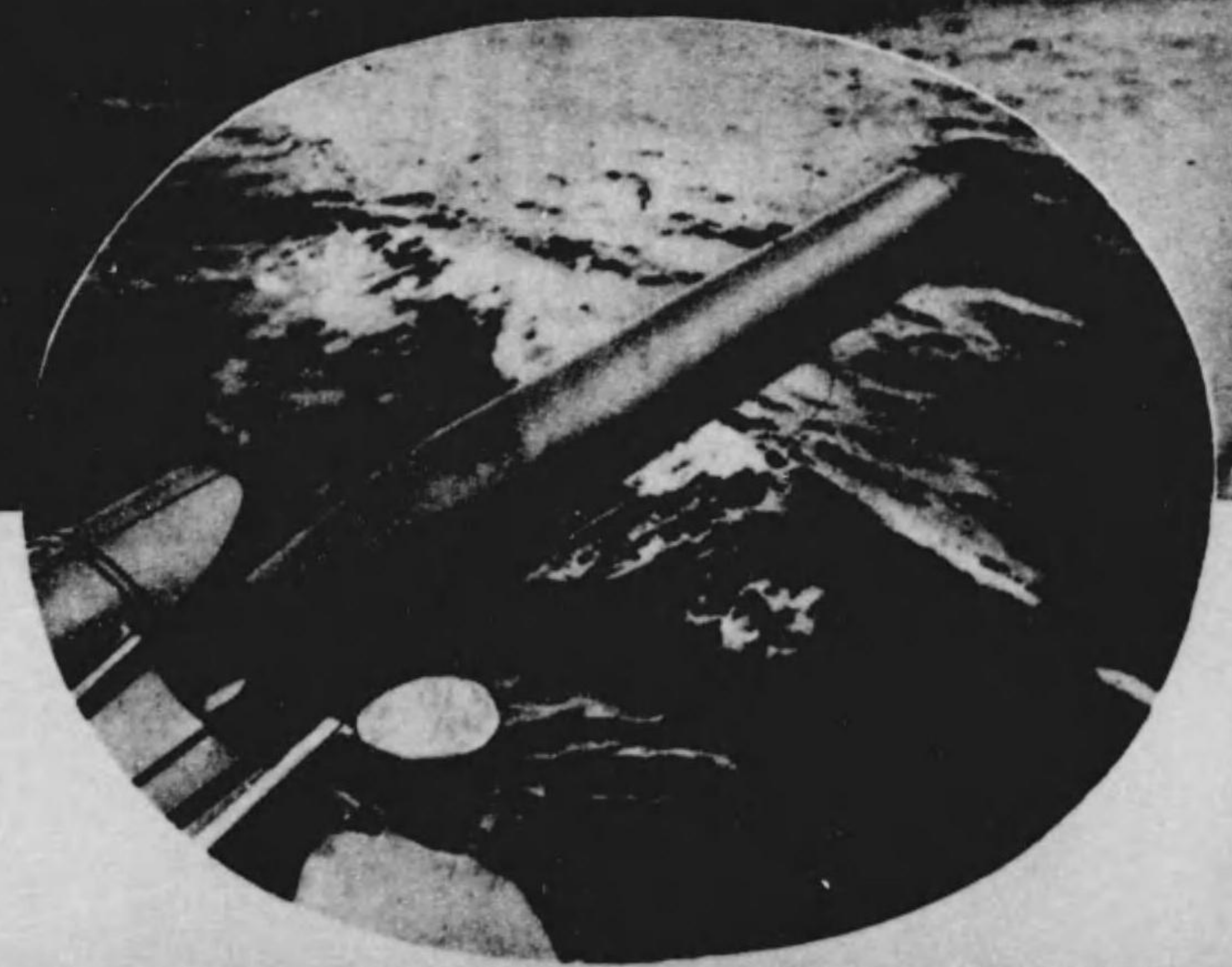


走滑降編を事見るゆ映翼銀



△ 優秀で鳴る報因就偵察機

◻ 艇號一式〇九が我なうやの鷲荒



△ 水雷發射

いま艦上發射管から射ち出された魚形水雷、尾端の自動推進機で、海面に白波を立てながら毎々二萬米を泳ぎ切る。しかもこれに見舞はれたら後、いかなる艦も水雷艦だ。

△ 潜水艦

『日本潜水艦』の名は、外國海軍にとつては海の怪物以上にとつて、國威の偉業と、國威の猛烈さは到底他の追従を許さぬからだ。この世界無比の潜水艦隊が、悠々浮遊してゐる限り敵の大艦隊も、絕對に日本近海へは近寄れない。

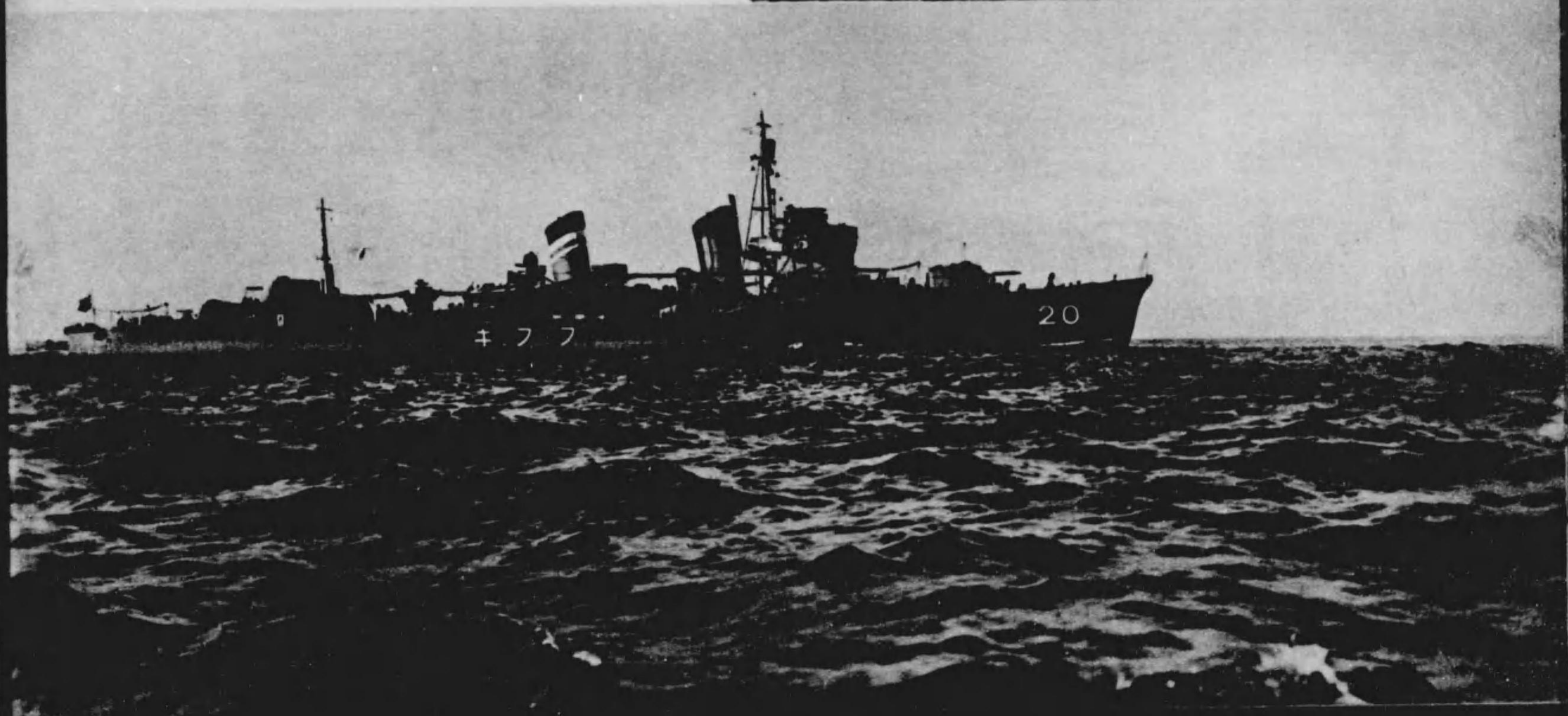


D
敷設艦 白鷹

機軸水雷を、敵艦隊の通路や敵の港附近に敷設するのが重要な任務だが、潜水艦を防ぐ防壁網を張るのもこの艦である。

一等駆逐艦 吹雪

海軍の騎兵艦隊は、獨特の快速を以て敵の主力艦隊に魚雷攻撃を行ふ。中でも我が駆逐艦は、列強海軍の東門である。

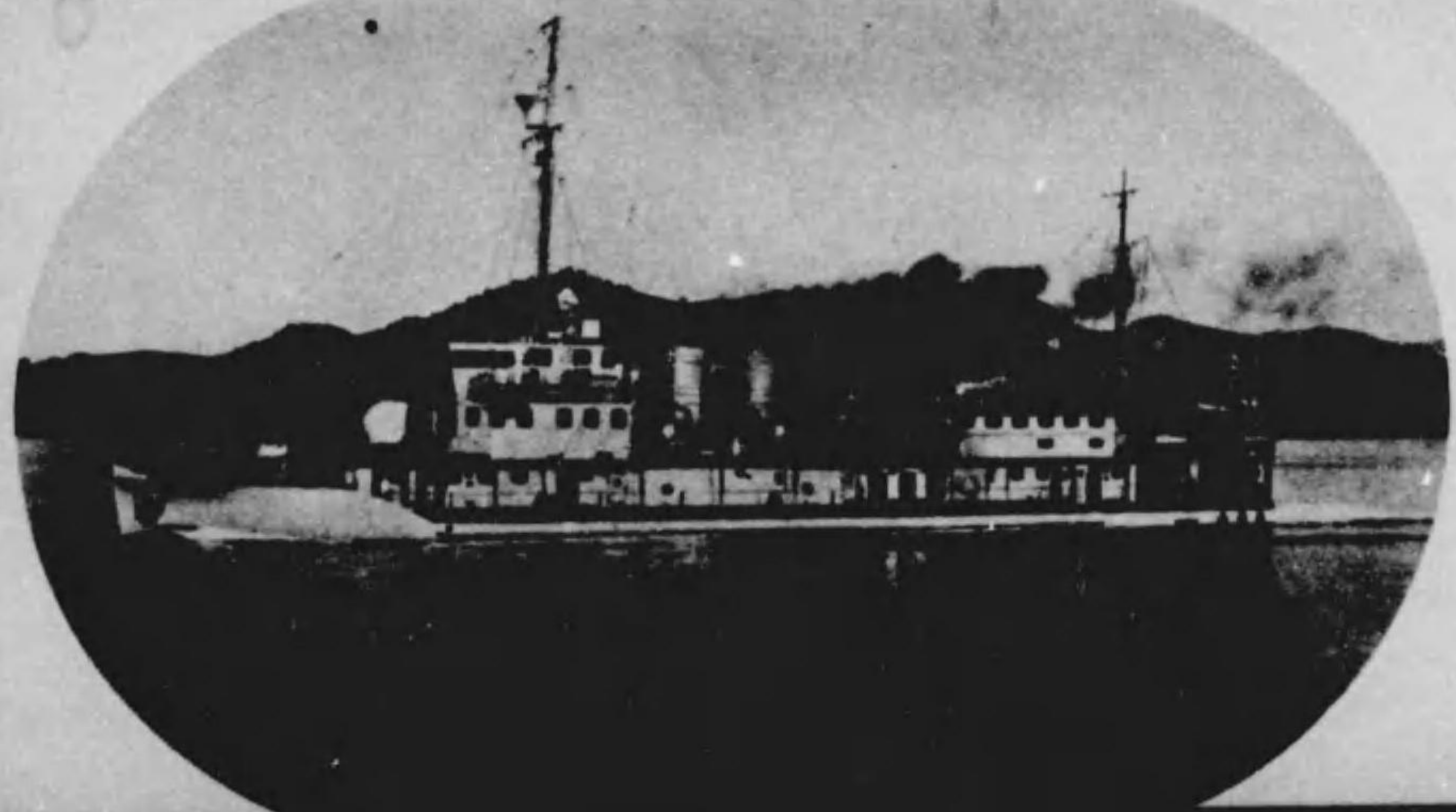


列強海軍の脅威
一萬噸巡洋艦「愛宕」

どう見ても敵艦としか思はれぬ威容、さすがは世界注視の的だけはある。連力三十三節、二十個砲十門、十二個高角砲四門、魚雷發射管八個と三重張りの外郭は攻守共まさに鐵壁を誇るに足る。

砲艦 熱海

軍艦中での小銃者だが、その備が一米餘りの浅い艦脚を利用して、支那の揚子江などをかなり上流まで溯り、小さな大砲と機關銃で居留民の保護に任じてゐる。



陸戦隊

日本の陸戦隊は實に強
いと、上海事變でも列
國の舌を挫かせた、海
では世界無比の強さを
誇る我が海軍が、陸で
もあれ程の威力を發揮
するのだから、日本海
軍の在るところ他國の
窺ふ餘地は無い。



装甲自動車

砂囊を箱に蓄積中の陸戦隊と装甲自動車。四番から角の
様に突き出た機関銃はいま盛んに唸つてゐるのだ。

伝令オートバイ

しつかと裝備された機関銃は時々追撃用ともなるが、そ
の快速を利用して隊から隊への連絡、傳令の役を承る。

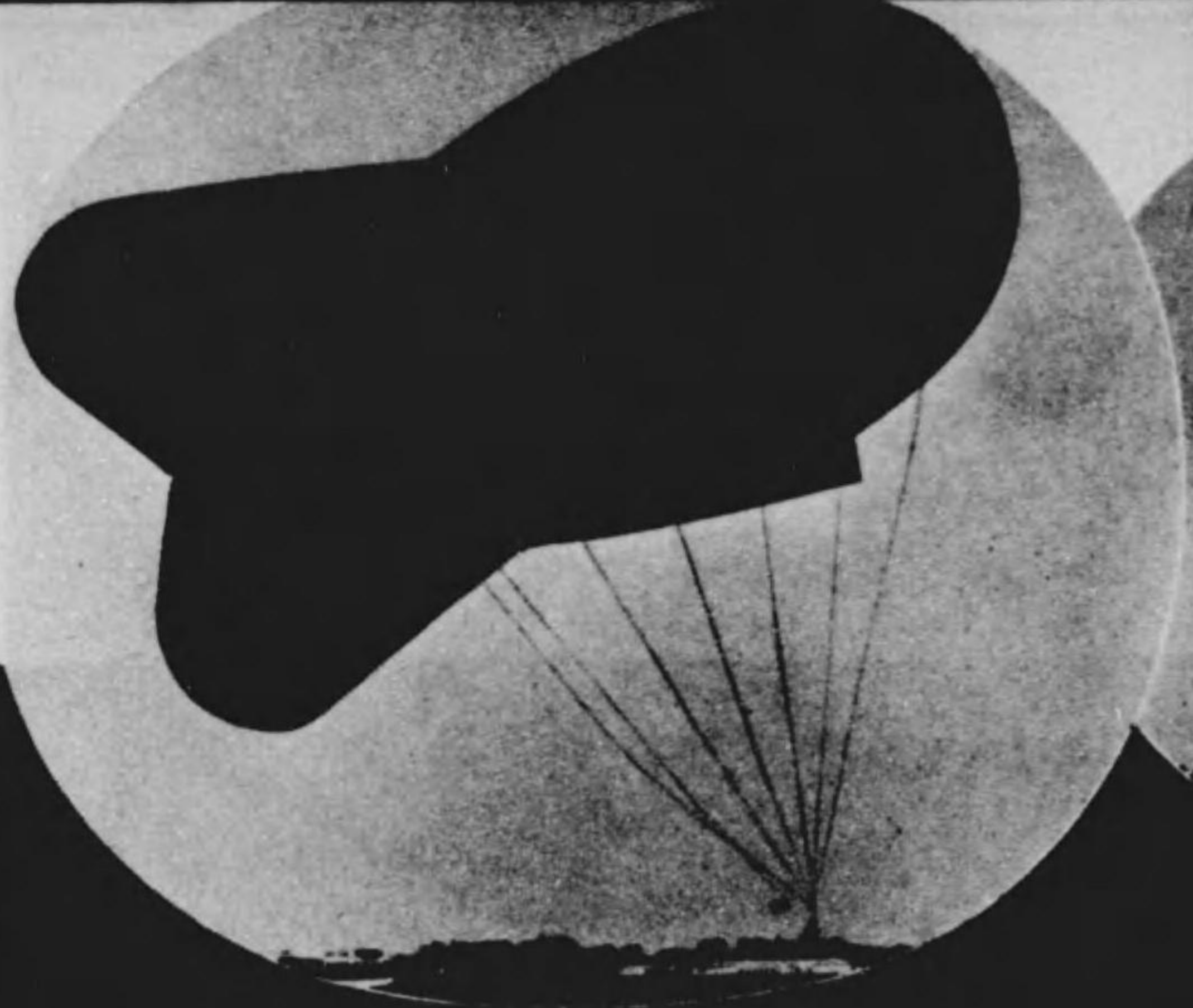
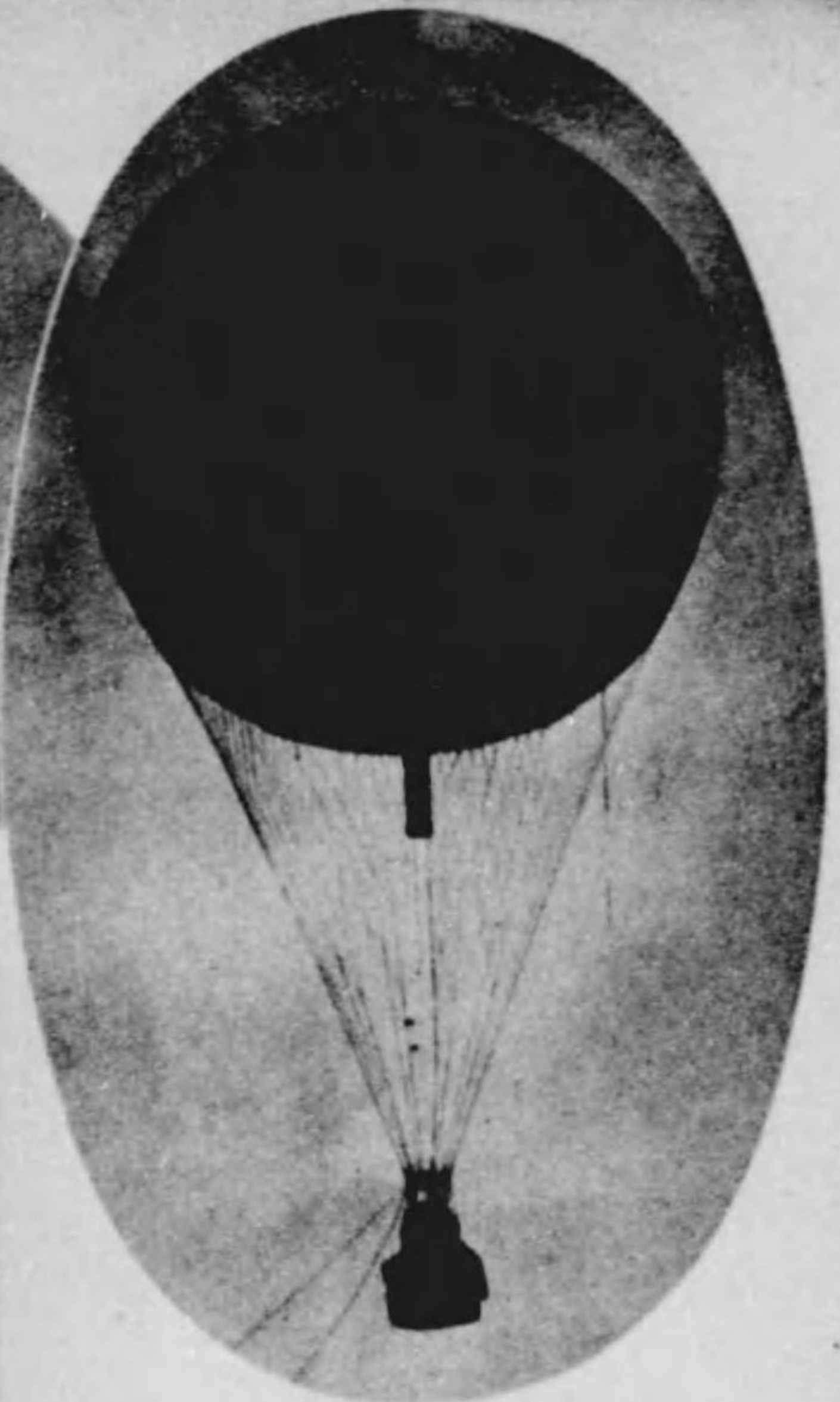
突撃！

機突、若鋼砲々しく、機雷
網を踏みにちつて肉弾戦を
敢行する陸戦隊員は、陸軍
歩兵に劣らぬ果敢の主だ。
その肩宇には、日本海軍の
信望を擔ふ悲壯な決意が顯
まれる。

國境警備へ

國境警備、居留民保護の重
責に向ふ陸戦隊員、この意
氣あれば、決して百萬の敵
にもひけをとらない！





防空

ひとたび戦端が開かれたら、必ず行はれるは帝都空襲である。強力なる爆弾、焼夷弾はおろか、怖るべきイペリット、毒瓦斯弾のお見舞ひもまた覚悟しなくてはならぬ。

防空！ 防空！ これこそ帝都五百万市民の、常に訓練して置くべき非常時責務であらう。



右頁

上段右端より

◇敵機を見張る気球

◇空の警備員オートチャイロ

◇帝都の周囲上空に網を張つて

敵機の侵入を防ぐ阻害気球

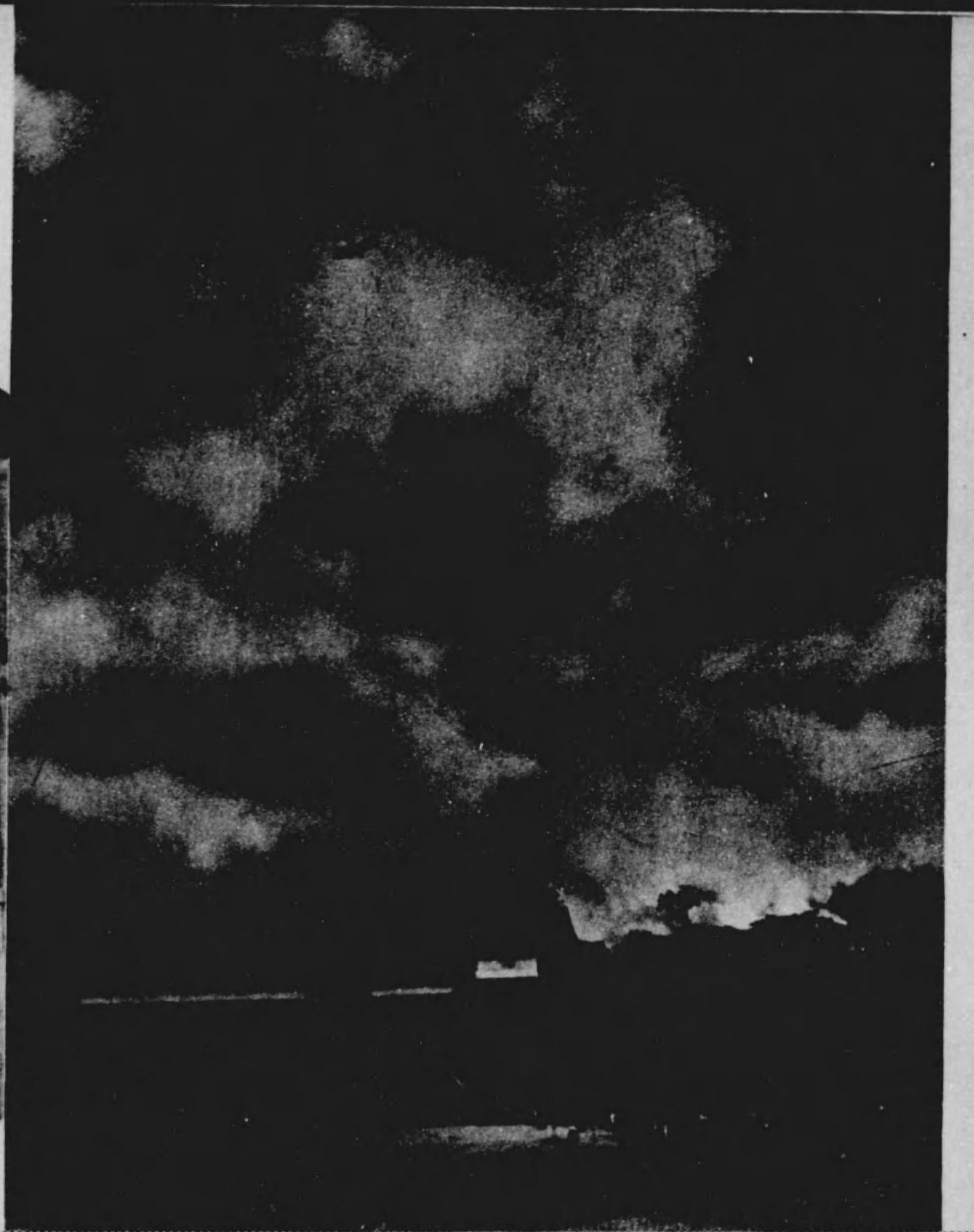
下 敵機御座んなんと暗黒

の空をにらむ高射砲隊



D 一機も見逃さじと、機群警戒を怠らない高射砲隊と防空隊の活躍振り

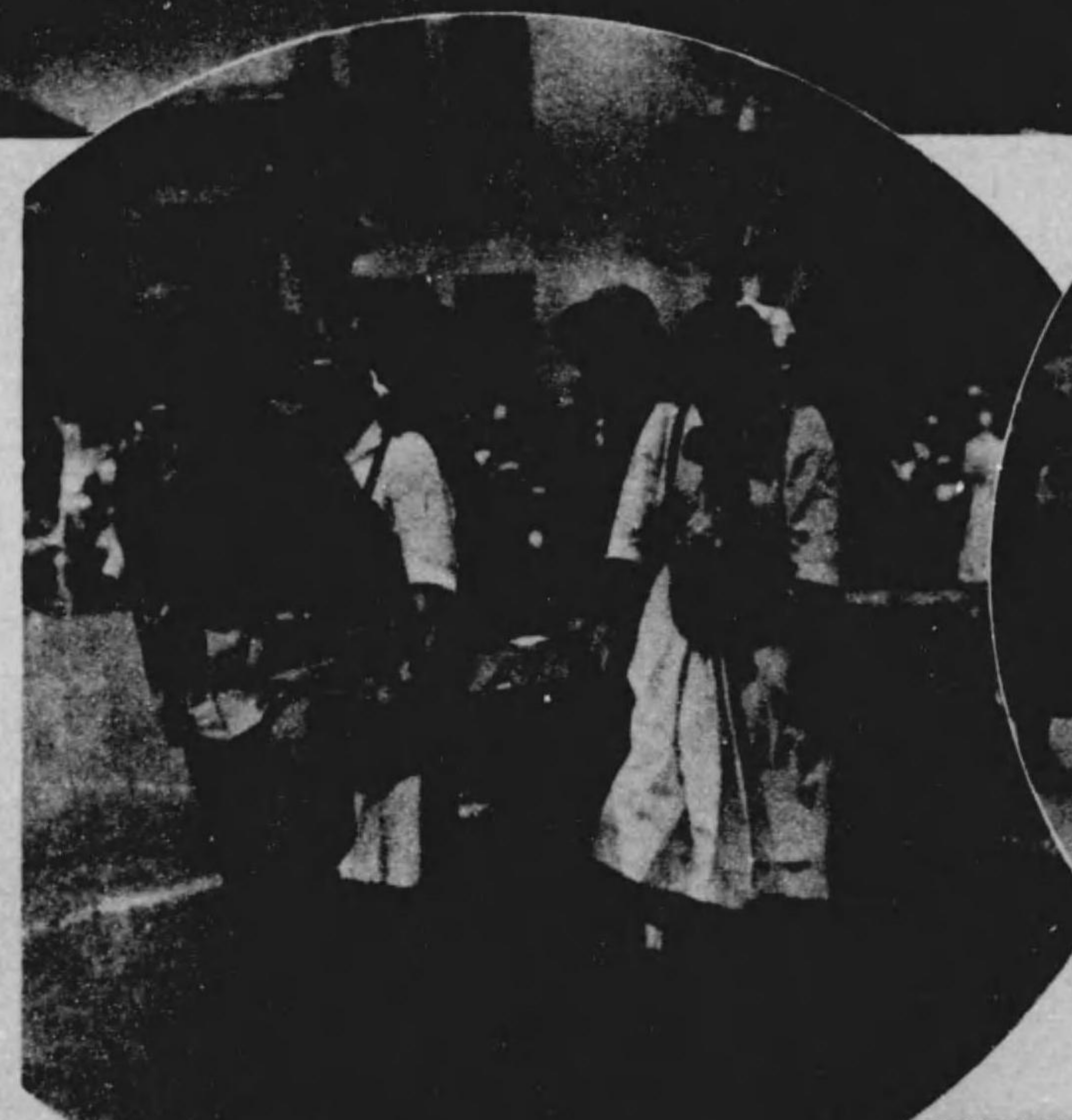
A 敵機襲来の警報に、遠早く都市上空に行はれる爆撃機隊



D
大内山を包む煙幕



空襲警報！
瓦斯マスクをつけた防護
隊員は、サイレンを鳴ら
しながら市中を疾駆して、
避難所を知らせる



上 素直ッ空襲！ 逸早く報道線に立つた我が報知隊
下 右 敵機の後布した毒瓦斯を防護する防護隊員
同 左 毒瓦斯中に活躍する救護班

のこりど

製創・士博耶太孝橋高
(許特賣專)料養滋度速高



お飲物なら
これが一番です!

トチモ美味しくて、飲めば身体が
丈夫になる、素晴らしいお飲物。

なぜ身体が丈夫になるか?

「どりのこの」の主成分は、身体の活動力源泉で
ある有機糖、果糖と、強力な消化力を有するアミ
ノ酸ですから、胃腸の弱い人でも、小児でも消
化吸収出来、滋養分とする事が出来るのです。

誰方のお口にも合ふ美味芳香ノ

其の上とろりと甘い舌觸り、上品な香りを有つ
て居りますから、病人、小児は勿論、お茶がは
りの飲物として各御家庭で親迎されて居ます。

りあに店品料食・店薬名有國全
部事商社談講會辯雄本日大 元賣發



勇みたちて
勇み立つ我が兵士
いざ往かん御國の爲に

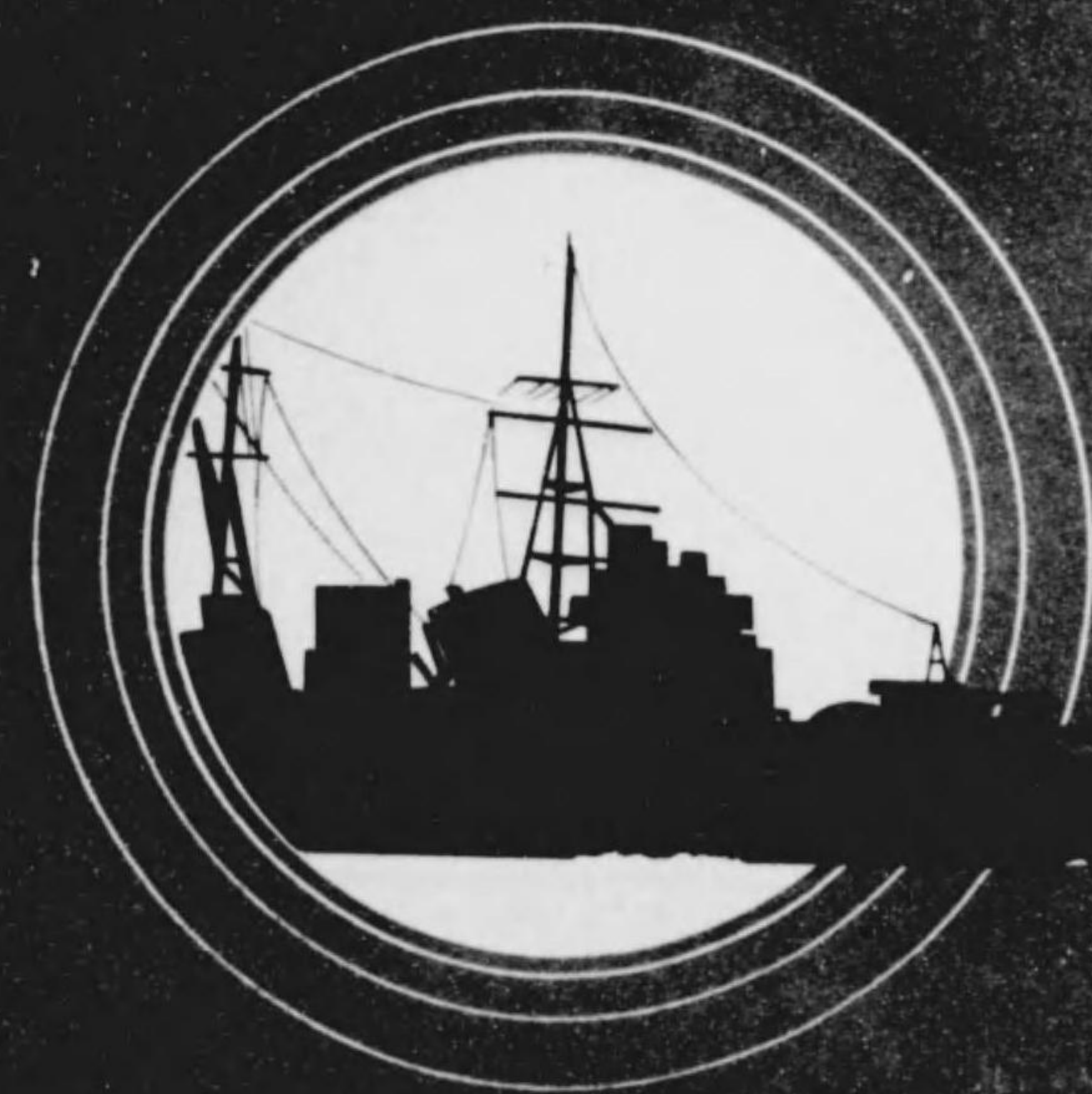
頼母しや
銃後の護り!



護れ
第二の國民よ!!







9
0